

次期帯広市環境モデル都市 行動計画の策定について

平成25年9月

市民環境部環境都市推進課

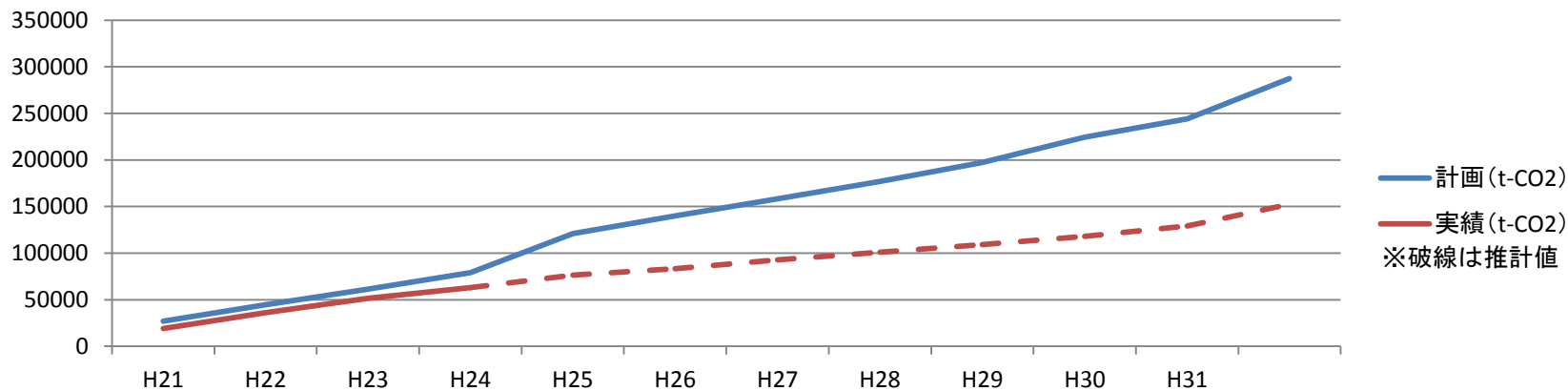
1. 経緯

- 帯広市は平成20年7月に環境モデル都市として認定され、平成21年3月に5つの視点と55項目からなる環境モデル都市行動計画を策定し、地球温暖化対策をすすめています。
- 環境モデル都市行動計画は、平成21年度から平成25年度までに具体化する予定の取組内容と2030年までの中期削減目標、2050年までの長期削減目標からなっています。
- 環境モデル都市アクションプラン(第2次)の策定について、この7月末に内閣官房地域活性化統合事務局より指示があり、平成26年度以降の5年間に具体化する予定の取組を定めることとなったものです。
- なお、原案策定後、有識者から構成される国のワーキンググループのヒアリング及び関係府省による確認を受ける手続きとなります。

2. 環境モデル都市行動計画の現状

- 各年度における削減量の実績は、平成21年度は19,102t(目標値27,137t)、平成22年度は36,321t(目標値44,838t)、平成23年度は51,580t(目標値61,404t)、平成24年度暫定値は63,106t(目標値78,999t)であり、計画目標の8割前後を推移しています。
- 国のフォローアップへの対応として、新たな取組による削減量を既存の取組に上積みし、目標値に近づけています。そのため、実際の取組の数は55項目から82項目に増加しています。
- 現状のまま取組を継続した場合、目標値の50%程度の達成率と推測しています。

図 過去4年間の目標値と実績値の比較



3. 次期計画案について

- 帯広市環境モデル都市行動計画の骨格となる5つの視点及び中長期削減目標は変更しません。
- 平成26年度から平成30年度までの各年度における削減量は、帯広市第六期総合計画の成果指標である「市内から排出される二酸化炭素(CO₂)削減量」と同じ値とします。
- 取組の対象を民間企業や他の機関に拡大し、環境モデル都市に認定以降、帯広市内において展開された取組やデータ等も用います。
- 最新の温室効果ガス排出量の算定方法を用い、より正確な数値の把握に努めます。

4. 主なスケジュール

7月 市民アンケート(7/25～8/19)

10月 国WGのヒアリング(10/1)

11月 パブリックコメントの実施(11/25～12/25)

12月 国に素案提出

1月 次期行動計画の関係府省による確認

3月 次期行動計画の公表

環境モデル都市における平成24年度の取組の評価結果

帯広市	人口:16.8万人、世帯数:8.3万世帯(平成25年3月末現在) 就業人口8.8万人(平成21年度)、市内GDP:5,376億円(平成19年度) 面積:618.94km ² (うち森林面積258.1km ²)
------------	---

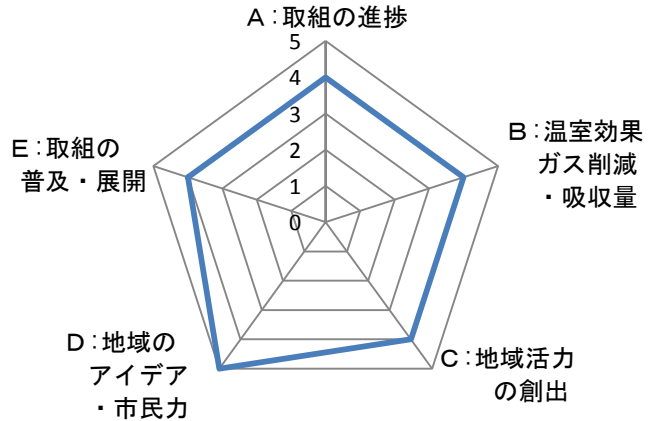
平成24年度の取組の総括

平成24年度の取組は、計画通りまたは前倒しで実施しており、概ね順調に進捗している。

地域活力の創出については、省エネ住宅建築の促進や未利用だったバイオマスの活用を着実に進めてきたことに加え、大規模太陽光発電施設の建設、公共交通機関の利用促進等の新たな取組がなされた。

地域のアイデア・市民力については、町内会の防犯灯の省エネ化が好調であったほか、一般家庭に設置された太陽光発電システムのCO₂削減効果をクレジット化する「おひさまソーラーネット帯広」を創設する等、市民が主体となる取組が展開された。

取組の普及・展開については、行政や大学等の視察の受入れ、出前環境教室の実施等の取組をすすめることができた。



A: 施策進捗

4

【参考指標】

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	24	48	算定式: ②/① *100	5	130~
b)ほぼ計画通り	1	45	45		4	110~
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	13	0		3	90~109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70~89
計		① 82 ② 93	113	1	~69	

(特記事項)

- 平成24年度の82の取組のうち、追加・前倒し・深掘りを行ったものが24(29.3%)、ほぼ計画通り進捗したものが45(54.9%)であり、着実に取組が進められている。
- 年間の日照時間が長く、寒冷な気候という地域特性が着目され、大規模太陽光発電施設の事業化に向けた動きが活発化し、4箇所の施設が建設された。
- 太陽光発電システム導入補助の実績数は、計画(70件)の約4.8倍となる338件となっており、一般家庭の設置が大幅に増加した。また、貸付金事業の件数は99件(予定数100件)となっており、導入の促進に大きく寄与している。
- 北方型住宅等の省エネルギーに優れる住宅建築への奨励金、一般家庭に設置された太陽光発電システムのCO₂削減効果のクレジット化、高齢者バス無料乗車証の交付による公共交通の利用促進等、市民が主体となる取組が展開された。

B: 温室効果ガスの削減・吸収量

4

【参考指標】

取組による効果	(t-CO ₂)	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO ₂)	(前年度比)
温室効果ガス削減量	37,555	+24.1%	H23実績(暫定値)(実排出係数)	131.0	+7.8%
温室効果ガス吸収量	4,794	+30.0%	H23実績(暫定値)(排出係数固定)	130.4	-3.2%

(特記事項)

- 温室効果ガス排出量は、基準年(2000年)比で15.0万t-CO₂減少、前年比で9.5万t-CO₂増加となっている。
- 電力供給事業者の排出係数変動の影響も大きいことから、排出係数を固定して算出した場合、基準年比で15.5万t-CO₂減少、前年比で4.3万t-CO₂減少となる。
- これまでの取組による効果を一部除いた削減・吸収効果が4.2万t-CO₂(H23計画累計6.1万t-CO₂)見込まれることから、取組による効果が着実に発現しており、実質的な排出量の削減に一定程度、寄与している。
- 以上のことから、一定の効果が発現しており、アクションプランに掲げる目標を達成することが見込まれる。

C：地域活力の創出

4

【参考指標】

道路照明灯の省エネ化	219灯	大規模太陽光発電施設建設数	計5.5MW
エコフィード利用実績	3,984.9t	河川流木・支障木燃料利用量	1,063t
おびひろ住宅づくり奨励金交付件数	100件	高齢者バス無料乗車証利用者数	のべ830,959人
太陽光発電システム導入補助件数	338件 (前年比1.5倍)		
太陽光発電システム導入貸付件数	99件 (前年比1.2倍)		

(特記事項)

- ・食品残さ等から製造された飼料であるエコフィードの利用が定着してきており、ほぼ計画通りの成果を挙げることができた。
- ・省エネ住宅の建築及び定住促進、地域経済活性化を兼ねた「おびひろ住宅づくり奨励金」には、予定数を大幅に上回る申請があった。
- ・国土交通省北海道開発局帯広開発建設部との協定により、未利用のバイオマスである河川流木・支障木を地元企業の木質チップボイラーの燃料として継続的に活用している。
- ・全国的にも事例が少ない貸付金制度(利子補給)を補助制度と併せて実施することで、太陽光発電システムの導入件数が増加しており、普及促進と地域経済の活性化に大きな効果があった。
- ・本市の地域特性である長い日照時間、寒冷な気候により、民間企業による大規模太陽光発電施設が相次いで建設された。

D：地域のアイデア・市民力

5

【参考指標】

帯広の森はぐくむ来館者	14,083人	ノーカーデー参加者数	のべ6,781名
自然観察会等の行事参加者	1,116人	清掃ボランティア(エコフレンド)登録者数	1,879名(計画700名)
防犯灯の省エネ化	722灯	省エネルギー型自販機台数	93台
廃食用油回収量	154,721L		
おひさまソーラーネット帯広入会者数	612人		
環境家計簿登録件数	135件		
マイバッグ持参率	83%		

(特記事項)

- ・帯広の森の活動拠点である「はぐくむ」の年間来館者数は14,083人、自然観察会等の行事参加者数は1,116人となっており、森の育成管理や環境学習の場として多くの市民による利用があった。
- ・町内会が管理する防犯灯のLED化について、予定の700灯を上回る申込みがあり、省エネへの感心の高さが伺われた。
- ・廃食用油回収の取組実績は昨年度よりやや減少傾向にあるが、当市の人口規模を考慮すると、全国的に見ても高い回収量であると推察され、取組が広く市民に定着していることが示唆された。
- ・一般家庭の太陽光発電システムによる自家消費電力分のCO₂削減効果を有効活用するため、市が削減量を取りまとめてクレジット化を行う「おひさまソーラーネット帯広」を創設し、612名の入会者があった。
- ・市民の清掃ボランティアであるエコフレンドの登録者数が計画の約2.6倍となり、意識の高まりが見られた。

E：取組の普及・展開

4

【参考指標】

行政視察団体数	13団体		
全国市長会研修員数	4名		
大学講義等の件数	4件		
JICA研修コース数	1コース		
出前環境講座回数	34回(のべ1,371人)		

(特記事項)

- ・国内各地の13団体の行政視察、全国市長会からの研修員、大学機関の調査、研修、講義等を受け入れることにより、本市における取組を通じて環境モデル都市に係る情報発信を行うことができた。
- ・JICAの研修に講師を派遣参加することにより、東南アジア等をはじめとする世界各国からの受講者に向けて本市の取組を講義し、環境モデル都市の取組を海外に紹介することができた。
- ・小、中学生、町内会、PTA、各種サークルなどの団体を対象に、地球温暖化の現状や身近に取り組める省エネ活動の紹介を実施することで、環境問題への認識を深め、具体的行動に結びつけるきっかけを提供することができた。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24 予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(a)帯広の森育成・活用とみどりのまちづくりの推進(仮称)帯広の森市民活動センターを拠点とした市民協働で取り組む「帯広の森」の育成と活用)	1-1			実施	<p><実施> 帯広の森 植樹面積 0.4ha 【H21~24累計】 6.1ha</p> <p>帯広の森・はぐくむ(計画時仮称:帯広の森市民活動センター)の活用</p>	c	<p>2.0t-CO₂ (累計30.2t-CO₂)</p> <p>育成林の平均吸収量を1haあたり1.35t-C/ha・年とする。 2.0ha×1.35t-C/ha・年×44/12=10.0t-CO₂ 【累計】6.1ha×1.35t-C/ha・年×44/12=30.2t-CO₂</p>	<p>帯広の森はぐくむの年間来館者数は14,083人、64回開催した自然観察会等の行事における参加者数は1,116人となり、森づくりの拠点施設として多くの市民に利用された。</p>	順調に推移している。	<p>植樹・間伐・林床管理により、多くの市民が親しめる「帯広の森」を育てていく。また、帯広の森・はぐくむを育成管理・利活用の拠点施設とし、間伐などの森づくり体験、自然観察、木工、ウォーキング、ペレットづくりなどの行事を行い、さらに森の植物・動物調査を継続実施し、植物や動物の生息状況を調べ、森の育成管理や利活用へのフィードバックを図る。</p>
	(a)帯広の森育成・活用とみどりのまちづくりの推進(ペレット工房整備とバイオマス資源の活用)	1-2	業務		実施	<p><実施> 帯広の森ペレット工房での間伐材、剪定枝の利活用ペレットを4t製造</p>	b	<p>4.5t-CO₂</p> <p>木質ペレットの発熱量 4,000kcal/kg、灯油の発熱量 8,764kcal/lとして計算 ペレット利用 4t/年 ペレット熱量に相当する灯油量は、4,000kcal/kg × 4,000kg ÷ 8,764kcal/l = 1,826l 1,826l/年 × 2.49kg-CO₂/l ÷ 1,000 = 4.5t-CO₂</p>	<p>木質ペレットの製造から利用までを一貫して見学できる施設として市民への啓発に活用された。</p>	順調に推移している。	<p>ペレットの生産・利用、環境学習の場として取組を継続する。</p>
	(a)帯広の森育成・活用とみどりのまちづくりの推進(30万本植樹活動)	1-3		○	実施	<p><実施> 30万本植樹計画の実績 緑地:10.28ha、公園:8.85ha、街路樹など:4,247本 【H21~24累計】 緑地:18.3ha、公園:56.8ha、街路樹など:24,657本</p>	b	<p>209.8t-CO₂ (累計976.5t-CO₂)</p> <p>育成林の平均吸収量を1haあたり1.35t-C/ha・年、天然生林の平均吸収量を0.42t-C/ha・年、アカエゾマツ32kg-CO₂/年・本とする。 緑地:10.28ha×1.35t-C/ha・年×44/12=50.9t-CO₂(累計90.6t-CO₂) 公園:8.85ha×0.42t-C/ha・年×44/12=13.6t-CO₂(累計87.5t-CO₂) 街路樹等:4,540本×32kg-CO₂/年/1,000=145.3t-CO₂(累計798.4t-CO₂)</p>	<p>人生における節目の時期に苗木を贈呈する慶事記念樹事業により、民有地の緑化に寄与している。</p>	順調に推移している。	<p>緑化キャンペーン、慶事記念樹贈呈事業、桜並木整備事業、街路樹補植、その他植樹の継続実施。</p>

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24 予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
住・緑・まちづくり	(b)環境リサイクル施設の集積((仮称)エコタウンの造成)	2	業務		着手	<検討> 中島地区における木質バイオマス施設、バイオガスプラントの整備について検討を進めた。	c	(定量化は困難)		中島地区は農地のため、土地利用については規制緩和が必要等の課題がある。	関係機関との協議を継続し、中島地区の土地利用に関する検討を進める。
	(c)街灯、防犯灯の省エネ化(道路照明灯の高圧ナトリウムランプ化)	3-1	業務		実施	<実施> 道路照明灯の省エネルギー化を実施。市道の約4,800基の道路照明灯(水銀灯)のうち、7基を無電極放電灯に、224基を高圧ナトリウム灯に交換(計231灯交換(全体の約5%)、計画258灯)。 【H21~24累計】 計画 1,968灯交換、削減のペW数:393,420W 実績 2,062灯交換、削減のペW数:377,977W	a	63.8t-CO ₂ (累計736.0t-CO ₂) [(250W-110W)×224灯+(250W-50W)×7灯]×11hr×365日×0.485kg-CO ₂ /kwh÷1,000kg/t÷1,000W/kw = 63.8t-CO ₂	直接的な削減効果のほか、公共施設への導入が進む事により、市民へのPR効果も見込むことができる。	順調に推移している。	継続して道路照明灯の省エネ化を実施する。
	(c)街灯、防犯灯の省エネ化(公園の省エネ照明器具や節水器具などの導入)	3-2	業務		実施	<実施> 公園水洗トイレへの電磁弁の設置 なし 省エネ照明(無電極放電灯)への交換 20灯 【H21~24累計】 実績:公園水洗トイレへの電磁弁の設置 6箇所 省エネ照明(無電極放電灯)への交換 53灯 計画:公園水洗トイレへの電磁弁の設置 12箇所 省エネ照明への交換 100灯	c	9.0t-CO ₂ (累計18.9t-CO ₂) [(250W-60W)×4灯+(300W-60W)×16灯]×11hr×365日×0.485kg-CO ₂ /kwh÷1,000kg/t÷1,000W/kw = 9.0t-CO ₂	直接的な削減効果のほか、公共施設への導入が進む事により、市民へのPR効果も見込むことができる。	水栓トイレの電磁弁については、特に無駄の多かった公園への設置が終わったため、状況を見つつ設置を行う。	省エネ照明(無電極放電灯)への交換を20灯程度実施する予定。
	(c)街灯、防犯灯の省エネ化(町内会や組合管理の防犯灯のLED化)	3-3	業務	○	検討・実施せず	<実施> 町内会・組合管理の防犯灯(水銀灯40W)722灯の省エネ化(LED灯10W 309灯、LED灯20W 405灯、無電極放電灯37W 8灯)を前倒しで実施。 【H21~24累計】 40W→20W 1,405灯、40W→10W 309灯、40W→37W 8灯、250W→25W 36灯、70W→25W 18灯交換	a	33.9t-CO ₂ (累計90.2t-CO ₂) [(40W-10W)×309灯+(40W-20W)×405灯+(40W-37W)×8灯]×11hr×365日×0.485kg-CO ₂ /kwh÷1,000kg/t÷1,000W/kg = 33.9t-CO ₂	LEDの高寿命という特徴と維持管理の負担軽減の観点より、地域町内会の関心が高いことから、助成制度を変更、平成22年度より前倒しで実施し、市民啓発に貢献している。	順調に推移している。	リース方式による防犯灯の省エネルギー化(LED化)を実施する。
	(d)省エネ建築の促進(省エネ・高性能建築物の建築、改築)	4-1	業務・家庭	○	実施	<実施> 省エネ高性能住宅の建設実績 581件 【H21~24累計】 2,542件 <実施> 若年世代の省エネ住宅建築及び定住の促進、地域経済の活性化を兼ねた制度である「おびひろ住宅づくり奨励金」を創設。北方型住宅等の建築に対し、地域商品券40万円を交付した。 H24実績 100件	a	578.7t-CO ₂ (累計2531.8t-CO ₂) 581件×2,000ℓ(一戸当たりの年間灯油消費量)×20%=232,400ℓ/年 232,400ℓ/年×2.49kg-CO ₂ /ℓ÷1,000kg/t = 578.7t-CO ₂	昨年度に比べ、北方型住宅と次世代省エネ住宅(平成11年基準)両者の建築を対象として助成を実施したことにより、住宅づくり奨励金の利用件数が伸びた。引き続き利用を呼びかけ、省エネ住宅の普及を推進する。	順調に推移している。	省エネ住宅建築700戸を予定。
		4-2	業務		実施	<検討・実施せず> 太陽光発電の新規設置なし。 【H21~24累計】 公共施設等12箇所に、のべ226.8kW設置	c	0t-CO ₂ (累計220.0t-CO ₂) 【累計】 226.8kw×2,000hr/年×0.485kg-CO ₂ /kwh÷1,000kg/t = 220.0t-CO ₂	直接的な削減効果のほか、公共施設への導入が進む事により、市民へのPR効果も見込むことができる。	これまで、主に施設の新設に合わせて設置していることから、既存施設への設置についても検討する。	次年度は2箇所の施設において導入を検討している。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗			平成25年度の展開			
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
(d)省エネ建築の促進 (公共施設の省エネ化)		H22新-1	業務		検討・実施せず	<p><実施> 公共施設の省エネ化工事(太陽光発電以外) ・高効率照明への交換 コミセン・福祉センター1施設 20W5灯⇒8W3灯、40W1灯⇒12W3灯、60W3灯⇒7W3灯 下水終末処理場 200W18灯⇒150W18灯 【H22～24累計】 ・高効率照明への交換 コミセン・福祉センター6施設、保育所・児童保育センター2施設、森の交流館、稲田浄水場、帯広川下水処理場、帯広の森アリーナ ・地中熱ヒートポンプの導入 帯広の森市民プール</p>	b	2.2t-CO ₂ (累計399.7t-CO ₂)	$\frac{\{(100W-24W)+(40W-36W)+(180W-21W)+(200W-150W) \times 18 \text{灯}\} \times 11h \times 365 \text{日} \times 0.485 \text{kg-CO}_2/\text{kwh} \div 1,000 \text{kg/t} \div 1,000 \text{W/kg}}{2.2 \text{t-CO}_2}$	直接的な削減効果のほか、公共施設への導入が進む事により、市民へのPR効果も見込むことができる。	順調に推移している。	公共施設への省エネ設備の導入を積極的に行う。
		H21新-1	業務		実施	<p><実施> 省エネルギー改修に関わる全ての経費(建設費、金利、ESCO事業者の経費)を、光熱水費の削減分で賄う事業であるESCO事業を市有施設(帯広市役所、とかちプラザ)で実施し、得られた削減効果を国内クレジット制度を利用して、売却。売却益は環境基金に繰り入れ、更なる活用を図っていく。 H24実績 H24ESCO事業の削減効果526t-CO₂ うち売却量231t-CO₂</p>	b	-	本事業におけるESCO事業者が、国内クレジット試行制度における大企業に相当する北海道電力のグループ企業であったことから、H21に同試行制度に自治体として初めて申請し、クレジットが認定された。	順調に推移している。	公共施設や市内の民間施設におけるESCO事業導入を検討。	
		H23新-1	業務	○	検討・実施せず	<p><実施> ESCO事業以外の公共施設省エネ効果を国内クレジット制度を活用し、クレジット化した。 ・コミュニティセンターと道路照明灯の照明設備更新 240t-CO₂ ・帯広の森市民プールにおけるヒートポンプ導入 173t-CO₂ ・市民が設置した太陽光発電システム設置によるCO₂削減効果 448t-CO₂</p>	a	861t-CO ₂	240+173+448=861t-CO ₂		順調に推移している。	公共施設における省エネ効果の更なるクレジット化と環境基金への活用に向けて、引き続き検討をすすめる。
(e)公共施設のストック活用と長寿命化	5	業務		実施	<p><検討・実施せず> 市営住宅の改修なし。 【H21～24累計】 市営住宅2棟(48戸分)全面改修</p>	c	0.0t-CO ₂ (累計47.8t-CO ₂)	<p>【累計】 全面改修時の性能を次世代省エネ基準Q=1.6以下： 従来より20%省エネとして算定 1戸当たりの灯油消費量 2,000ℓとして算定 48戸×2,000ℓ×20%×2.49kg-CO₂/ℓ÷1,000kg/t = 47.8t-CO₂</p>		引き続き改修に取り組む。	市営住宅の全面改修を行う。	
(a)自然と共生する循環型・環境保全型の地域づくり(飼料自給率の向上)	11-1	産業	○	実施	<p><実施> エコフィード実績 3,984.9t (計画3,000tの約1.3倍)</p>	a	12,134.0t-CO ₂	$3984.9 \text{t/年} \times 145 \text{kg-CH}_4/\text{t} \div 1000 = 577.8 \text{t-CH}_4/\text{年}$ $577.8 \text{t-CH}_4/\text{年} \times 21 = 12,134.0 \text{t-CO}_2$		順調に推移している。	エコフィードの利用促進を目指す。	

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量(暫定)	地域活力の創出等			
おびひろ発農・食	(a)自然と共生する循環型・地域保全型の地域づくり(バイオマス利活用の推進)	11-2	産業	○	実施	<実施> 長いもネットの適正処理(燃料利用) 258.6t(計画3,000t 達成率8.6%)	c	808.2t-CO ₂	長いもネット(PE)発熱量 11,000kcal/kg 灯油発熱量8,764kcal/ℓより、 258.6t × 1,000 × 11,000kcal/kg ÷ 8,764kcal/kg × 2.49kg-CO ₂ /ℓ ÷ 1,000 = 808.2t-CO ₂		当初はポリエチレンネットと長いも茎葉が混在した状態でペレット化し燃料利用することを想定していた。しかし、現状は葉茎を取り除いたポリエチレンネットのみの状態で燃料利用している。よって、当初計画よりも再利用後の単位当たり熱量は高くなったものの処理量は極端に少なくなっている。	市内農協と連携して適正処理を推進する。
	(a)自然と共生する循環型・地域保全型の地域づくり(良質たい肥生産プロジェクト)	11-3	産業	○	実施	<実施> 良質堆肥の投入実績 2,793.4ha(計画760haの約3.6倍)	a	11,210.4t-CO ₂	1ha当り20tの良質堆肥を施用した場合の土壌内炭素貯留量1.0945t-C/ha/年 2,793.4ha × 1.0945t-C/ha/年 × 44 ÷ 12 = 11,210.4t-C/年	H22までのモデル事業の結果、普及が進むことで、大きな効果を得る事ができた。	堆肥施用の良否は一部で農業者の意見が別れるところであるが、土づくりに欠かせないものであることが明らかとなっていることから、堆肥施用の普及を通し投入増を目指す。	良質堆肥の投入面積の更なる拡大を目指す。
	(a)自然と共生する循環型・地域保全型の地域づくり(クリーン農業の推進)	11-4	産業		実施	<実施> 減肥・減農薬取組面積実績 185.7ha(計画350ha 約1/2の面積減) (窒素換算減 36,157kg-N)	a	(定量化は困難)	-	試験的に実施する部分のみを計画値として計上していたが、結果が良好だったため、面積の増につながった。	順調に推移している。	国による支援事業の採択要件の変更に伴い、実施面積の減少が見込まれるため、事業の周知等により取組を推進する。
	(a)自然と共生する循環型・地域保全型の地域づくり(営農技術研究と支援)	11-5	産業		実施	<実施> 作況調査(11回)、営農技術情報の提供 食育展示圃場の設置 気象情報システムの提供(気象ロボット5箇所設置) 冬季における野菜のハウス栽培の可能性を拓げるため、H22に導入した太陽光発電設備を活用し、ハウレンソウを用いた栽培試験を実施。	b	(定量化は困難)	-		順調に推移している。	作況調査、営農技術情報の提供、食育展示圃場設置、気象情報システムによる情報提供の継続実施。
	(a)自然と共生する循環型・地域保全型の地域づくり(防風保安林や耕地防風林の多面的活用)	11-6			○	実施	<実施> 防風林の植栽実績 5,460本(計画5,660本) 市有林の植栽実績 5.27ha(新植:5.27ha、補植:なし)(計画5ha) 【H21~24累計】 防風林の植栽実績 20,391本(計画16,980本) 市有林の植栽実績 22.99ha(H22北海道カーボンオフセット活用型森林づくりモデル事業による植栽含)(計画15.24ha)	b	1,456.6t-CO ₂ (累計5,456.2t-CO ₂)	アカエゾマツ1本あたりのCO ₂ 吸収量を0.262t、育成林の平均吸収量を1haあたり1.35t-C/haとする。 ・防風林植栽 5,460本 × 0.262t = 1,430.5t-CO ₂ ・市有林植栽 5.27ha × 1.35t × 44/12 = 26.1t-CO ₂ 【累計】 ・防風林 20,391本 × 0.262t = 5,342.4t-CO ₂ ・市有林 22.99ha × 1.35t × 44/12 = 113.8t-CO ₂		順調に推移している。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
	(b)地産地消の推進(地場農畜産物の地産地消促進)	12-1	産業		実施	<p><実施> とちぎ交流大平原センタータ市を開催(計20回) おびひろ軽トラタ市を週3回開催 帯広の森市民農園サラダ館朝市を開催(計20回) 秋の収穫市を開催(1回) 越冬野菜市を開催(1回)</p>	b	(定量化は困難)	旬の野菜を求め、大勢の来場者でにぎわい、地産地消の理解を深めることができた。	順調に推移している。	おびひろ軽トラタ市、帯広の森市民農園サラダ館朝市等の取組を継続して実施する予定である。	
	(b)地産地消の推進(ポロシリ自然体験観光推進)	12-2			実施	<p><実施> 日高山脈、十勝幌尻岳の山麓に位置する自然豊かなポロシリ自然公園を核として自然環境保全の取組や地産地消の食イベントを実施。</p>	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	引き続きポロシリ自然体験観光推進事業を実施し、自然環境保全の取組や地産地消の推進を図る。	
	(b)地産地消の推進(学校教育における地域食材利用)	12-3	業務		実施	<p><実施> 学校給食での地産地消の推進(米については北海道米、パン小麦については十勝産小麦を極力使用)。また、地産地消の推進や郷土への愛着を深める目的で、1983年度から「ふるさと給食週間」を実施。</p>	b	(定量化は困難)		地元産食材の活用やふるさと給食の充実など順調に推移しているが、天候不順など状況により成果が左右される。	学校給食における地元食材の利用に努め、地産地消の推進、食の安全安心の確保、食育の推進を図る。また、ふるさと給食を1週間に特化した取り組みから変更し、収穫期(9~11月)を中心とした「ふるさと給食の日」として地元食材を使った献立を実施する。	
	(c)広大な農地を温室効果ガスの吸収源とする取組の推進	13	産業	○	実施	<p><実施> 不耕起栽培の実績 715.9ha (計画1000ha、進捗率72%)</p>	b	2362.5t-CO ₂	<p>土壌炭素の貯留量: 慣行の場合2.88t-C/ha、 省耕起の場合1.98t-C/ha 715.9ha × (2.88-1.98)t- ha/年 × 44/12 = 2362.5t- CO₂</p>	H22までの実証委託事業の結果を受け、普及を図り一定程度の効果をj得る事ができた。	経営に直結する問題であることから、実践事例と効果について理解が得られるよう、広く情報提供と普及啓発を行うことが必要である。	不耕起栽培面積2,000haを目指す。
	(a)豊富なバイオマス資源の活用(牛ふんたい肥ペレット燃料の生産)	21-1	産業		実施	<p><実施> 牛ふんたい肥ペレットの生産の実績 45t (計画800t 達成率5.6%)</p>	c	51.1t-CO ₂	<p>牛ふんたい肥ペレットの 発熱量 4,000kcal/kg、灯 油の発熱量 8,764kcal/l として計算 (4,000kcal/kg × 45t × 1000 ÷ 8,764kcal/l) × 2.49kg-CO₂/l ÷ 1,000 = 51.1t-CO₂</p>	牛ふん堆肥ペレットは、木質と比較して燃焼後の灰分が多く、クリンカが発生しやすいため、家庭でのストーブ利用が難しく、他部門での利用拡大を図る必要がある。また、堆肥に該当しないため、産廃としての処理が必要になることから、規制緩和も併せて必要である。	牛ふん堆肥ペレットの生産1,000tを目指す。	
	(a)豊富なバイオマス資源の活用(バイオエタノールのマテリアル利用)	H23新-2			検討・実施せず	<p><着手> 国際戦略総合特区の指定を受け、地域で製造されたバイオエタノールのマテリアル利用について提案を行った。</p>	a	(定量化は困難)		事業化に向けた課題がある。	引き続き協議をすすめる。	

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
	(a)豊富なバイオマス資源の活用(廃てんぷら油のBDF精製)	21-2	運輸	○	実施	<実施> 一般家庭から出る廃てんぷら油を回収する「家庭用廃食用油の再生利用モデル事業(おびひろ・BDFプロジェクト)」を実施。 家庭用てんぷら油回収実績 56,926ℓ(回収率25%) 産廃てんぷら油回収実績 97,795ℓ(回収率17%)	b	399.2t-CO ₂	(56,926ℓ+97,795ℓ)× 2.58kg-CO ₂ /ℓ÷1000 = 399.2t-CO ₂	事業者の取組として、スーパーの配送車での利用、回収が行われており、地域における循環が実現している。	昨年度に比べ、家庭系、産業系ともに回収量が減少しており、家庭系については、回収拠点の減少が関係していると推察される。 回収拠点の拡大と普及啓発事業の実施により、回収量の増加を図る。	家庭用てんぷら油回収率70%、産廃てんぷら油回収率30%を目指す。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(バイオエタノールやBDFによる自動車やバスの運行)	22-1	運輸		実施	<実施> 帯広市の公用車において、B100 6台(塵芥車5台、道路パトロール車1台)、B5 10台(資源ごみ収集車7台、消防車2台、広報車1台)使用。さらに、北海道十勝総合振興局 5台、民間バス事業者4台、スーパー配送車45台でBDFを継続使用。	b	(21-2で算定)	-	事業者の取組として、スーパーの配送車での利用、回収が行われており、地域における循環が実現している。	順調に推移している。	BDFの利用を継続し、使用する車両の増加を目指す。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(B5燃料の利用)	H23新-3	運輸	○	検討・実施せず	<実施> 平成23年度にB5燃料の給油スタンドが1箇所開設され、まちづくりに関する基本協定を締結している北海道ココ・コーラボトリング株式会社の都市間配送車及び市塵芥車と消防車両等で利用されている。	a	(21-2で算定)	-	B5燃料の給油スタンドが開設されたことにより、一般ユーザーへの普及拡大が期待できる。	順調に推移している。	地域のNPO法人が主体となって、地域クレジット等を活用した事業を進めることにより、B5燃料の利用拡大に向けた普及啓発を推進する。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(菜の花サミットの開催)	H23新-4	運輸	○	検討・実施せず	<実施> 平成23年度の第11回「全国菜の花サミット」の開催をきっかけに、市民レベルにおいて他の開催地との交流が継続されている。	b	(定量化は困難)	-		順調に推移している。	交流を通じてBDFの利用拡大に努めていく。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(エコカーへの転換)	22-2	運輸		実施	<実施> ハイブリッド車を9台導入し、運用した。	b	8.3t-CO ₂	ハイブリッド車9台分のべ走行距離92,308km、燃料使用量5643.2ℓ(平均燃費16.4km/ℓ)なので従来ガソリン車の平均燃費10km/ℓとすると(92,308km÷10km/ℓ-5643.2ℓ)×2.32kg-CO ₂ /ℓ÷1,000 = 8.3t-CO ₂		順調に推移している。	脱マイカーの推進とともに、エコカーへの転換を継続して進める。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(エタノール3%混合燃料(E3)の普及促進)	22-3	運輸		実施	<実施> 車両6台により1,828.9ℓのE3燃料を使用。	b	0.1t-CO ₂		順調に推移している。	引き続きE3燃料の普及を図る。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(エタノール10%混合燃料(E10)の普及促進)	22-4	運輸		実施	<実施> 北海道によるE10走行モデル事業により、1,200ℓのE10燃料を使用(一般モニター11台、試乗車モニター5台)。	b	0.2t-CO ₂	バイオ燃料の高度利用を進めることで、エネルギーの地産地消が期待できる。	E10については、平成24年度に法整備がなされたが、対応車の開発や燃料供給設備の整備等、市場流通に向けての課題が残る。	バイオ燃料の高度利用に向けて引き続き取組を進める。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(エタノール10%混合燃料(E10)の普及促進)	H23新-5	運輸	○	検討・実施せず	<着手> 国際戦略総合特区の指定を受け、BDFとバイオエタノールの高度利用について提案を行った。	b	(定量化は困難)	バイオ燃料の高度利用を進めることで、エネルギーの地産地消が期待できる。	E10については法整備がなされたが、B20については現在のところ認められていない。	国際戦略総合特区制度等を活用し、BDFの高度利用を目指す。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(小水力発電の導入)	22-5	業務		実施	<着手> 十勝中部広域水道企業団の別府配水池への導入について検討中である。	b	(定量化は困難)		上水道水路を使用するため、飲料水に対する万全な安全性確保が必要であり、慎重に検討を進めている。	調査、設計等を行う予定。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
創資源・創エネ	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(雪氷エネルギー)	22-6		○	実施	<p><実施> 銀行、大学、カーリング場等、市内6か所で雪氷エネルギーを利用。 十勝雪氷エネルギー協議会への参加及び現地視察会、講演会等を通じ、情報提供の実施と普及について検討。</p>	a	(定量化は困難)	氷点下30度まで冷え込む寒冷な地域特性を活かし、各施設での省エネルギーが展開されている。	順調に推移している。	施設の冷房や農産物の貯蔵施設等への普及拡大を図る。	
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(チャレンジ25地域づくり事業)	H22新-2	業務	○	検討・実施せず	<p><実施> 平成22年に環境省「チャレンジ25地域づくり事業(実証事業)」として環境省より実証委託を受け、一団となった商業街区内の民間4事業者と共同で、省エネルギー化を実施(帯広市分は道路照明灯)。 導入省エネ手法:LED照明・投光器、無電極放電灯、地中熱ヒートポンプ、排湯熱ヒートポンプ、業務用エコキュート、太陽熱とエコキュートのハイブリッドシステム、ポンプ等インバータ制御、BEMS、氷冷房</p>	b	329.7t-CO ₂	医療施設・介護支援施設・高齢者保健施設:32.1t-CO ₂ 削減、遊戯施設:119.5t-CO ₂ 削減、スーパー・駐車場:146.8t-CO ₂ 削減、温浴施設:31.3t-CO ₂ 削減なので32.1+119.5+146.8+31.3=329.7t-CO ₂ ※道路照明灯分は「3-1」欄で計上のため、含めていない。	民生家庭部門と同様に増加を続ける民生業務部門での対策のモデルケースを示すことができた。	順調に推移している。	実証事業のため、継続して削減効果を確認していくとともに、地域での普及ならびに業務部門での削減に繋げていく。
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(チャレンジ25地域づくり事業)	H22新-3	産業・業務	○	検討・実施せず	<p><実施> 平成22年に環境省「チャレンジ25地域づくり事業(補助事業)」として、3民間事業者の取組が事業採択され、省エネルギー設備等を導入。 食品工場:木質チップボイラー導入 8,000t-CO₂削減 金融機関店舗:地中熱ヒートポンプ、氷蓄熱冷房 20.2t-CO₂削減 温浴施設:温泉熱・排湯熱の給湯利用(熱交換)、天然ガス焚高効率潜熱回収型ボイラー導入 127t-CO₂削減 <実施> 食品工場の木質チップボイラーにおいて、これまで未利用だった河川流木の燃料利用が継続されており、平成24年度は1,063tの利用実績となった。</p>	b	8,000t-CO ₂ +20.2t-CO ₂ +127t-CO ₂ =8,147.2t-CO ₂	産業・業務部門における事業者の削減の取組が、徐々にではあるが、広がってきている。	順調に推移している。	産業・業務部門での削減のため、事業者に対し、各種補助制度の利用・検討を働きかけていく。	
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(一村一炭素落とし事業)	H22新-4	業務	○	検討・実施せず	<p><実施> H22に北海道の「一村一炭素落とし事業」の活用により、民間の観光庭園における省エネ改修を実施し、運営を継続している。 事業主体:グリーンパール300コンソーシアム(帯広市含む) 導入省エネ手法:太陽光発電、LED照明、BDFボイラー、廃食用油ボイラー</p>	b	345.2t-CO ₂	・導入前 灯油122,748ℓ、軽油15,000ℓ、電力98,500kwh ⇒導入後 灯油・軽油なし(BDF、廃食用油ボイラー)、電力96,060kwh [122,748ℓ×2.49kg-CO ₂ +15,000ℓ×2.58kg-CO ₂ +(98,500kwh-96,060kwh)×0.353kg-CO ₂]÷1,000=345.2t-CO ₂	BDFボイラーの活用により、冬季の花卉栽培が可能となったことにより、雪と花を楽しめる新たな観光事業が可能となった。	順調に推移している。	民間事業者により、今後も継続して取組をすすめる。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(b)新エネルギー技術の導入とクリーンエネルギーの導入(エコキュート導入促進)	H22新-5	家庭	○	検討・実施せず	<実施> 一般家庭の給湯使用に係るエネルギー消費における対策として、CO ₂ 冷媒ヒートポンプ給湯器(エコキュート)に対する補助制度を実施。 H24補助実績 75件 【H22～24累計】 235件	b	42.8t-CO ₂ (累計134.0t-CO ₂) 年間1台当り0.57t-CO ₂ 削減(チームマイナス6% ホームページ”私のチャレンジ宣言 温暖化防止メニューとCO ₂ 削減量”)に基づき計算 0.57t-CO ₂ × 75台 = 42.8t-CO ₂	導入の拡大に寄与している。	順調に推移している	補助50件を実施。
	(c)太陽光発電の普及	23	家庭・業務	○	実施	<実施> 太陽光発電システム導入補助実績 338件(計画70件約4.8倍の導入実績) 【H21～24累計】 817件、のべ3838.04kW設置	a	1,573.7t-CO ₂ (累計3,722.9t-CO ₂) 補助対象の平均が約4.8kW 4.8kw × 338件 × 2,000hr/年 × 0.485kg-CO ₂ /kwh ÷ 1,000 = 1,573.7t-CO ₂	当初予算での購入補助250件が3ヶ月で埋まり、100件分を追加補正しており、太陽光発電設備の導入の拡大に寄与している。	順調に推移している。	太陽光発電設備の購入補助を400件実施。
	(c)太陽光発電の普及	H23新-6	家庭	○	検討・実施せず	<実施> これまで未利用であった一般家庭太陽光発電システムによる自家消費電力分のCO ₂ 削減枠を有効活用するため、帯広市が削減枠をとりまとめてクレジット化を行う「おひさまソーラーネット帯広」を創設。 H24 対象者845名のうち、入会者数612名(約72%)	a	(定量化は困難)	個々の削減量が小さく、個人でのクレジット化は非常に困難であるとはいえ、半数以上の方に趣旨をご理解いただき、多くの賛同者を得る事ができた。 国内クレジット制度が市民にとっては馴染みがなく、入会者には直接的な利益還元ができない中で、市民意識の高まりが立証されたといえる。	順調に推移している。	平成24年度に国内クレジット認証委員会の事業承認を得て、平成25年にクレジット認証を受ける。
	(c)太陽光発電の普及	H23新-7	業務	○	検討・実施せず	<実施> 民間事業者により、4箇所(計5.5MW)の大規模太陽光発電施設が建設された。	a	2667.5t-CO ₂ 発電出力5.5MW 年間発電量約5,500MWh 5,500,000 × 0.485 ÷ 1,000 = 2667.5t-CO ₂	日照時間の長さ、寒冷な気候等の地域特性をPRしてきたこと、平成23年度にばんえい競馬場に実験施設が建設されたことにより、大規模太陽光発電施設事業者の関心が高い。	順調に推移している。	太陽光発電事業を行う事業者に市有地の長期貸付を実施予定。
	(d)燃料の天然ガス・LPガスへの転換(家庭用の暖房)	24-1	家庭	○	実施	<実施> ガス暖房など実績 2,978件 (計画79,000世帯の普及率25%(19,750世帯) 達成率15%)	c	2,633.1t-CO ₂ 4,421kg-CO ₂ /年 × 2,978件 × 20% ÷ 1000 = 2,633.1t-CO ₂	環境関連イベント等により、市民の認知度は着実に上昇している。 また、供給体制が構築されたことにより、今後の進展が期待できる。	順調に推移している。	潜熱回収型の高効率給湯器に対する市の補助制度を継続することで、天然ガス利用の促進を図る。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
	(d)燃料の天然ガス・LPガスへの転換(家庭用の給湯)	H22新-6		○	検討・実施せず	<p><実施> 一般家庭ガス給湯使用実績 453,671m³</p> <p>一般家庭の潜熱回収型ガス給湯器(エコジョーズ)導入に対する補助事業を実施 H24実績 95件 【H22~24累計】 166件</p>	b	347.0t-CO ₂	<p>天然ガス46MJ/m³、灯油36.7MJ/l 天然ガスの総熱量=46 × 453,671=20,868,866MJ この熱量を得るための灯油必要量は、20,868,866 ÷ 36.7=568,634l 天然ガスCO₂換算係数 2.356kg-CO₂/m³なので、天然ガスによるCO₂排出量=2.356 × 453,671=1,068.8t-CO₂ 灯油換算係数は2.49kg-CO₂/lなので灯油のCO₂排出量=2.49 × 568,634=1,415.8t-CO₂ したがって、天然ガス転換による削減量=1,415.8-1,068.8 = 374.0t-CO₂</p>	環境関連イベント等により、市民の認知度は着実に上昇している。また、供給体制が構築されたことにより、今後の進展が期待できる。	順調に推移している。	潜熱回収型の高効率給湯器に対する市の補助制度を継続することで、天然ガス利用の促進を図る。
	(d)燃料の天然ガス・LPガスへの転換(企業などの暖房)	24-2	業務	○	実施	<p><実施> ガス暖房実績 1,761,991m³/年 (計画 普及率25% 6,700t-CO₂ 達成率22%)</p>	c	1,466.4t-CO ₂	<p>天然ガス46MJ/m³、A重油39.1MJ/l 天然ガスの総熱量=46 × 1,761,991=81,051,586MJ この熱量を得るためのA重油必要量は、81,051,586 ÷ 39.1=2,072,931l 天然ガスCO₂換算係数 2.356kg-CO₂/m³なので、天然ガスによるCO₂排出量=2.356 × 1,761,991=4,151.3t-CO₂ A重油換算係数は2.71kg-CO₂/lなのでA重油のCO₂排出量=2.71 × 2,072,931=5,617.6t-CO₂ したがって、天然ガス転換による削減量=5,617.6-4,151.3= 1,466.4t-CO₂</p>	環境関連イベント等により、市民の認知度は着実に上昇している。また、供給体制が構築されたことにより、今後の進展が期待できる。	順調に推移している。	現在はランニングコストが割高であるため、普及に向けた対策を検討する。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(d)燃料の天然ガス・LPガスへの転換(企業などの給湯・空調)	H23新-8		○	実施	<p><実施> ガス給湯実績 402,012m³/年 ガス冷房実績 307,501m³/年 (計 709,513m³/年)</p>	a	590.5t-CO ₂ 天然ガス46MJ/m ³ 、A重油39.1MJ/ℓ 天然ガスの総熱量=46×709,513=32,637,598MJ この熱量を得るためのA重油必要量は、 32,637,598÷39.1=834,721ℓ 天然ガスCO ₂ 換算係数2.356kg-CO ₂ /m ³ なので、 天然ガスによるCO ₂ 排出量=2.356×709,513=1,671.6t-CO ₂ A重油換算係数は2.71kg-CO ₂ /ℓなのでA重油のCO ₂ 排出量=2.71×834,721=2262.1t-CO ₂ したがって、天然ガス転換による削減量=2262.1-1,671.6= 590.5t-CO ₂	環境関連イベント等により、市民の認知度は着実に上昇している。また、供給体制が構築されたことにより、今後の進展が期待できる。	順調に推移している。	現在はランニングコストが割高であるため、普及に向けた対策を検討する。
	(d)燃料の天然ガス・LPガスへの転換(自動車燃料)	24-3	運輸		検討・実施せず	<p><検討> 事業者との意見交換を行った。</p>	b	(定量化は困難)		充填時間、走行距離の制限、供給施設整備のコスト等の課題がある。	関係者、関係団体との意見交換を継続する。
	(e)豊富なバイオガス資源からの水素製造	25		○	検討・実施せず	<p><実施> 道内のバイオガスプラントについてまとめた調査結果を公表し、広く普及啓発に努めた。</p>	b	(定量化は困難)		調査結果を踏まえ推進している。	地域におけるバイオマスの循環を促進するために、バイオマス産業都市の指定を目指す。
	(f)スマートコミュニティ	H23新-9		○	検討・実施せず	<p><着手> 廃校となった中学校のグラウンド跡地を活用したスマートコミュニティの創出に向けて検討を行った。</p>	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	実現に向けて引き続き検討を進める。
	(a)おびひろまち育てプランの推進と中心市街地活性化の具現化	31			実施	<p><実施> 街なか居住の促進により、居住人口の増を図るため、第2期帯広市中心市街地活性化基本計画を策定した。 また、中心市街地活性化とライトダウンキャンペーンを兼ねたイベントとして「おびひろ広小路ビアガーデン」とタイアップし、会場内のライトダウンを行う代わりにキャンドルを灯す「ガイアナイトinおびひろ」を北海道十勝総合振興局と共同で実施(8月9、10日)。</p>	b	(定量化は困難)	ガイアナイトinおびひろには多くの市民が参加し、省エネ意識の醸成に効果があった。	順調に推移している。	第2期帯広市中心市街地活性化基本計画に基づき、中心市街地の活性化に向けた取り組みを進める。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24 予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
快適・賑わうまち	(b)環境にやさしい公共交通の利用促進	32	運輸	○	実施	<p><実施>(H24新) 70歳以上の高齢者にバス無料乗車証を交付し、公共交通機関であるバスの利用を促進した。 H24 のべ利用人数 820,556人(路線バス) 6,035人(あいのりタクシー) 4,368人(あいのりバス)</p>	a	<p>368.9t-CO₂</p> <p>輸送量あたりの二酸化炭素の排出量は、自家用乗用車 170g/km、バス 51g/km、よってバスの方が119g/km少ない</p> <p>1人あたりの路線バス平均移動距離数 3.6km/人、高齢者バス無料乗車証の年間利用者数 820,556人 × 3.6km × 119g=351,526,190.4g=年間約351.5t-CO₂</p> <p>1人あたりのあいのりタクシー平均移動距離数 16.0km/人、高齢者バス無料乗車証の年間利用者数6,035人 × 16.0km × 119g=11,490,640g=年間約11.5t-CO₂</p> <p>1人あたりのあいのりバス平均移動距離数 11.4km/人、高齢者バス無料乗車証の年間利用者数4,368人 × 11.4km × 119g/km=5,925,628.8g=年間約5.92t-CO₂</p>		順調に推移している。	引き続き取組を進める。
	(c)道路交通ネットワークの見直し、構築	33			検討・実施せず	<p><実施> 都市計画道路変更(学園通)の手続きを進めるため、関係地権者に対し、計画変更案について個別説明を行った。</p>	c	<p>(定量化は困難)</p> <p>-</p>		変更案に対して、一部地域住民の理解が得られていないため、今後も環境に配慮した整備の必要性を説明していく。	地域説明会を開催し、都市計画変更(学園通)の手続きを行う予定である。
	(d)自転車、歩行者利用環境の整備(自転車、歩行者道のネットワークなどの利用環境整備の促進)	34-1			実施	<p><実施> 栄通歩道再整備により、自転車走行環境改善を図った。</p>	b	<p>(定量化は困難)</p> <p>-</p>	自転車走行環境改善により、安全で安心な道路交通の確保を促進した。	順調に推移している。	栄通の自転車走行環境の改善を図る。
	(d)目転車、歩行者利用環境の整備(交通安全教育の推進)	34-2			実施	<p><実施> 市民の交通安全意識の醸成・向上のための教室及び研修会を実施 年間357回・のべ33,792人を対象として実施。</p>	a	<p>(定量化は困難)</p> <p>-</p>	計画300回、30,000人の目標に対して、ほぼ予定どおり実施し、啓発を行った。	順調に推移している。	引き続き年間300回、のべ30,000人を対象として実施。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(e)自転車ツーリングの仕組みづくり	35			実施	<実施> 自転車ツーリングに関する情報発信のため、HP「チャリ旅とかち」を開設し、初心者から上級者まで楽しめる複数の管内ツーリングコースやファッション、豆知識、交通マナーといった関連情報を総合的に紹介。 また、「サイクリングフェスタ2012」を開催し、からだと自転車について学ぶ4種類のセミナーのほか、約10km・30kmのサイクリングを実施。約100名の参加があった。	a	(定量化は困難)	HP「チャリ旅とかち」内ではツイッターとフェイスブックが利用可能であり、口コミ情報としての拡がり期待できる。	順調に推移している。	自転車ツーリングに関する情報発信を継続。
	(a)全市民運動の展開 (仮称)環境モデル都市推進協議会の創設	41-1			実施	<実施> 市民、企業、大学、行政など各界各層の18団体から構成される環境モデル都市推進協議会総会を、フォローアップの時期にあわせて開催。	a	(定量化は困難)	設立以降、5つのワーキンググループと7つの分科会を立上げ、意見交換の場として機能している。	順調に推移している。	環境モデル都市推進協議会における行動計画の進捗管理・検証を行う。また、新たな取組については分科会を設置し検討を行う。
	(a)全市民運動の展開 (環境家計簿やエコポイント事業の普及)	41-2			実施	<実施> 平成22年度に設置した帯広市独自の環境家計簿WEB版を運用した(H24末登録者数135名)。 エコポイントについては、一定の成果を得たため実施事業なし。	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	利用者数の増加に向けて、インセンティブや他事業とのリンクについて検討する。
	(a)全市民運動の展開 (仮称)おびひろ市民エネルギー基金の創設	41-3			実施	<実施> 平成22年度に創設した「帯広市環境基金」(計画時仮称:市民エネルギー基金)について、積立・運用を行った。 (H24末基金残高 19,117,586円、寄附6件、環境モデル地域事業912,368円、省エネ診断89,775円に繰り出し)	a	(定量化は困難)	企業6件より寄附をいただくなど、環境に配慮したCSR活動の受け皿として、また、省エネ事業への原資として機能している。	順調に推移している。	オフセット・クレジット等を活用した基金への繰り入れを進め、基金規模の拡大に努めるほか、充当する事業について検討する。
	(a)全市民運動の展開 (環境教育の推進(環境出前講座))	41-4			実施	<実施> 地球温暖化問題や省エネに係る環境出前講座をのべ34回実施。 (計画100回開催 達成率34%)	c	(定量化は困難)	小学生から大人まで、のべ1,371人が参加し、地球温暖化問題や環境問題について学んだ。	実施体制の問題もあり、目標回数まで到達できなかった。今後、手法について検討を行う。	実施体制を整え、環境出前講座を100回実施を目指す。
	(a)全市民運動の展開 (環境教育の推進(活力ある学力づくり支援事業))	41-5(1)			実施	<実施> 各学校が、独自に作成した学校改善プランの中で、重点的に取り組む内容に応じて、主体的に選択して応募し、その提案を受けて、教育委員会が採択校及び補助金額を決定する「絆を育む学校づくり支援事業」を実施。 [事業部門: 人との絆、ふるさとの絆] [うち環境教育関連事業]小学校6校、中学校3校	b	(定量化は困難)	自然環境、食育、農業体験学習など、バラエティに富んだ9校の提案を採択、実施した。	一定程度の成果は挙げられているが、3校減となった。	「絆を育む学校づくり支援事業」として環境教育支援を継続する。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗			平成25年度の展開			
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
	(a)全市民運動の展開(環境教育の推進(環境教育の推進に関する研究))	41-5(2)			実施	<実施> 環境教育推進委員会において、環境教育素材の調査・研究を実施し、「帯広市環境教育ガイド」を作成、各学校に配布したほか、環境教材の貸し出しを実施した。	b	(定量化は困難)	-	順調に推移している。	環境教育素材の各学校への貸し出しを継続実施するほか、「帯広市環境教育ガイド」について、より実践につながる内容とし、情報提供を行う。	
	(a)全市民運動の展開(環境教育の推進(市内連絡組織の形成))	H22新-7			検討・実施せず	<実施> 帯広市における環境教育関連部署の事業情報を共有、意見交換する市内横断組織において、環境教育の基本的な考え方の整理や連携の仕組みづくりを行った。 ※平成24年度は会議を1回実施 ※リーフレット発行、プログラム集発行、ホームページ公開開始、教員研修の実施	b	(定量化は困難)	-	順調に推移している。	学校、行政等各主体が環境教育に関する共通認識を持って事業等に取組めるよう、環境教育の基本的な考え方を記載したリーフレットなどを配布する。また、連携のしくみに基づく取組の企画・運営等を行う。	
	(a)全市民運動の展開(環境教育の推進(啓発用DVD作成))	H22新-8			検討・実施せず	<実施> 帯広市の環境モデル都市の取組を紹介するDVDを環境関連のイベントやエコプロダクツ2012等で活用した。	b	(定量化は困難)	-	順調に推移している。	平成25年度も継続的に環境関連のイベント等での活用を進める。	
	(a)全市民運動の展開(世界の人々と手を携えた環境保全の取組)	41-6			実施	<実施> JICA青年研修「インドネシア 都市環境管理」コースの講師として職員を派遣するとともに、JICA研修員へ英語版パンフレットを配布するなど帯広市の環境モデル都市の取組を広く紹介した。	b	(定量化は困難)	-	順調に推移している。	JICA各種コースの受入れを継続実施。	
	(a)全市民運動の展開(全国環境モデル都市との連携)	41-7			実施	<実施> 低炭素推進協議会に参加し、各WG等を通じて情報交換を行った。	b	(定量化は困難)	-	順調に推移している。	他都市との情報交換を継続して行う。	
	(b)ライフスタイルの変革(マイバッグ持参によるレジ袋の削減)	42-1	家庭	○	実施	<実施> レジ袋削減協定締結事業所でのレジ袋削減率(又はマイバッグ持参率) 82.7% (計画:レジ袋辞退率50%、実施:82.7%、計画の約1.7倍の成果)	a	3,308t-CO ₂	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋1枚当りCO₂排出量 0.1kg-CO₂ ・市内で年間使用されるレジ袋4,000万枚 $0.1\text{kg-CO}_2 \times 40,000,000 \text{枚} \times 82.7\% \div 1,000 = 3,308\text{t-CO}_2$	もっとも手軽な取組であり、多くの市民に定着している。また、協定締結店舗の一部から、レジ袋削減の収益金を市に寄附いただいた(環境基金に繰入)。	順調に推移している。	引き続き取組をすすめ、協定事業所以外での実施についても検討する。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画	
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等			
エコなくらし	(b)ライフスタイルの変革(マイ箸やマイボトルなどの利用)	42-2			実施せず	<実施> WEB版環境家計簿において、マイバッグや脱マイカーとあわせてマイ箸・マイボトルの二酸化炭素削減効果の情報提供を行い、利用を呼びかけた。	b	(定量化は困難)		ライフスタイルの転換に係る取組は、市民の意識によるところが大きいことから、継続した啓発が必要である。	マイ箸・マイボトルの利用について啓発の継続実施。	
	(b)ライフスタイルの変革(脱マイカーの推進やエコドライブの促進)	42-3			実施	<実施> ノーカーデー実績 11団体参加 節約距離のべ38,866km	b	9.0t-CO ₂ 平均燃費10km/ℓ、ガソリン使用と仮定すると、 38,866km ÷ 10km/ℓ × 2.32kg-CO ₂ /ℓ ÷ 1000 = 9.0t-CO ₂ 削減相当となる。	帯広市環境保全推進会議が提唱するノーカーデーについて、帯広市を含む官公庁や民間企業など11団体、6,781人が参加。	順調に推移している。	ノーカーデーの取組を継続実施する。	
	(b)ライフスタイルの変革(環境モデル地域)	H23新-10	家庭		検討・実施せず	<実施> 町内会や各種団体等の地域ぐるみで、独自のアイデアにより先進的な環境・省エネ活動を行い、その活動を有償ボランティアであるエコサポーターが支援する「環境モデル地域」事業を創設。H24については3団体をモデル地域に認定(H24地域活動開始)	a	(定量化は困難)		周辺地域への取組の波及効果が期待できる。	順調に推移している。	モデル地域3団体による活動。
	(b)ライフスタイルの変革(省エネコンテスト)	H23新-11	家庭		検討・実施せず	<実施> 市民の省エネ意識醸成のため、前年度と比較して、10月分の電気使用量が15%以上削減されている事を参加条件とした省エネコンテストである「マイナス15%コンテスト」を実施。応募者の中から、成績上位者21名に商品券、1位に省エネモニター贈呈。	a	3.7t-CO ₂ 応募者のうち、太陽光発電設備設置者を除いた対前年度削減電気総量は7,584kWhなので 7,584kWh × 0.485kg-CO ₂ /kWh = 3.7t-CO ₂		順調に推移している。	実施手法を見直し、平成24年度も継続して実施予定。	
	(c)ごみリサイクル率の向上(一般廃棄物処理基本計画)	43-1	家庭		検討・実施せず	<実施> 平成22~31年度の10年間を計画期間とする一般廃棄物処理基本計画を平成21年度に策定済み。目標の達成に向けて、各種取組を実施。	b	(定量化は困難)	計画の目標値を設定 ・1人1日当りのごみ排出量 702g(H20比25%減) ・リサイクル率 40%(H20比12%増) ・最終処分量 5,400t(H20比30%減)	予定通り、基本計画を策定し目標値を設定している。	目標の達成に向けて、各種取組を実施する。	
	(c)ごみリサイクル率の向上(廃棄物減量など推進審議会)	43-2	家庭		実施	<実施> 市長の諮問機関として、廃棄物減量などの計画、進捗状況等について審議会を2回開催した。	b	(定量化は困難)		予定通り審議会を開催し、リサイクルの推進状況について審議いただいている。	廃棄物減量等推進審議会開催(年2回)。	
	(c)ごみリサイクル率の向上(資源回収)	43-3	家庭		実施	<実施> 総資源回収量 8,533t、734回収団体が実施。(新聞、雑誌、雑びん類、缶類、紙パック、ダンボールなど)	b	(定量化は困難)	ごみ減量と市民のリサイクルに対する啓発に効果があった。	順調に推移している。	資源集団回収団体には奨励金、回収業者には協力金を支出する予定。	

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗				平成25年度の展開	
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(c)ごみリサイクル率の向上(生ごみ堆肥化容器などの補助)	43-4	家庭		実施	<実施> 生ごみ堆肥化容器 113個、電動生ごみ処理機 42台の購入助成。 【H21~24累計】 732件	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	生ごみ堆肥化容器100個、電動生ごみ処理機60台の購入助成を実施予定。
	(c)ごみリサイクル率の向上(ゴミコミュニティメール)	43-5	家庭		実施	<実施> ゴミコミュニティメール年2回発行。春のリサイクル広場、秋のリサイクルまつりの実施。	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	ゴミコミュニティメールの年2回発行、春のリサイクル広場、秋のリサイクルまつりの実施。
	(c)ごみリサイクル率の向上(生ごみリサイクル)	43-6	家庭	○	検討・実施せず	<実施> 家庭系の生ごみについては、家庭用コンポスト等による堆肥化により家庭園芸への利用が進められている。また、事業系食品廃棄物については、飼料化により家畜の餌、また堆肥化による農地への利活用が進められており、学校給食残渣については家畜の飼料としての利用が進められている。	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	各家庭における生ごみのリサイクルを促進する。
	(c)ごみリサイクル率の向上(生ごみリサイクル)	H23新-12	家庭	○	検討・実施せず	<検討> ごみ排出量の見える化に係る調査により、20%前後の有効性を見いだせたことから、市民へ浸透させる方法について検討を行った。	b	(定量化は困難)		実証調査は終了したことから、市民への啓発を進める。	見える化の有効性が示されたことから、市民への浸透について引き続き検討を行う。
	(d)木質ペレットなどの普及	44	家庭・業務		実施	<実施> ペレットストーブ購入補助実績 5件 ※1世帯当りの年間灯油使用量 2,000ℓ⇒木質ペレット 4.38tに相当 (木質ペレットの発熱量 4,000kcal/kg、灯油の発熱量 8,764kcal/ℓ) 計画:導入件数70件 達成率5.7%) 【H21~24累計】 ・ペレットストーブ 24件 ・パークボイラー 1件 削減量:灯油180万ℓ ※別事業者の木質チップボイラー1件は「H22新-3」欄で計上)	c	24.9t-CO ₂ (累計4601.5t-CO ₂) 一般家庭の灯油消費量2,000ℓとして 2,000ℓ×2.49kg-CO ₂ ×5件÷1000=24.9t-CO ₂	環境関連イベントや福祉センターでのペレットストーブ常設展示により、認知度そのものは上昇していると考えられる。	灯油に比べ、木質ペレットの価格が高いため、件数が伸びていない。	ペレットストーブ5件補助予定。
	(e)市民ボランティアの拡充(清掃美化活動)	45-1		○	実施	<実施> クリーンキャンパス21 11エリアで清掃活動実施(30団体、のべ3,500人参加) エコフレンズ登録者数 1,879名(計画700名 約2.7倍の成果)	a	(定量化は困難)	帯広版のアダプトプログラムであるクリーンキャンパス21と、その個人版に当たるエコフレンズによる清掃活動が市民活動として定着してきている。	順調に推移している。	クリーンキャンパス21におけるのべ参加人数の増を目指す。
	(e)市民ボランティアの拡充(割り箸回収の取組)	45-2			実施	<検討・実施せず> 平成21年度より割り箸の回収を行ってきたが、回収後の活用先がないことから取組を中断している。	c	(定量化は困難)		事業化の実現には運搬等に係るコストが課題であり、コストの負担先が問題となるため、引き続き検討をすすめる。	ライフスタイルの変革について引き続き啓発に努める。

個別事業に関する進捗状況等

取組方針	取組内容	取組番号	部門	主要	H24予定	平成24年度の進捗			平成25年度の展開		
						取組の進捗状況	計画との比較	取組の成果		課題と改善方針	取組の計画
								温室効果ガス削減量 (暫定)	地域活力の創出等		
	(f)その他の環境に配慮したエコ生活の実践(市職員による環境行動の率先実行)	46			実施	<実施> 市職員に向けてノー残業デーの実施、バス利用の呼びかけ、下りエレベータの利用省エネルギーを行った。	b	(定量化は困難)		順調に推移している。	ノー残業デーの徹底、通勤時のバス利用の呼びかけを継続実施。
	(f)その他の環境に配慮したエコ生活の実践(企業と連携した環境配慮の取組)	H22新-9		○	検討・実施せず	<実施> H22に締結した北海道コカ・コーラボトリング(株)と帯広市の「協働のまちづくりに関する基本協定」に基づき、省エネルギー型の自動販売機の導入を市内各地で行った(H24ソーラー付自販機63台、ピークシフト機30台を設置。累計93台(新規含))。	a	(定量化は困難)	市民に身近な存在である飲料水の自動販売機での取組であり、削減効果のみならず、市民の環境意識の啓発に大きく貢献している。	順調に推移している。	企業との連携で、環境に対する取組をさらに推進し、他企業との連携も検討する。

※1 アクションプラン上、平成24年度に取り組む(検討を含む。以下同じ。)こととしている事業すべてについて記載すること。(取組方針、取組内容、取組番号は、アクションプランから該当部分を転記すること。)

また、平成25年度以降に取り組むこととしていた事業で平成23年度に前倒しで行った事業についても、記載すること。(その場合、取組番号としては新-1、新-2・・・と記載すること。)

なお、平成22年度以前に前倒しで行った事業や新規追加を行った事業については、取組番号をH〇〇新-1、H〇〇新-2・・・と記載すること(H〇〇は、実施年度)。

※2 「主要」の欄には、平成24年度に取り組んだ主要事業(温室効果ガス削減効果大きい、特に先導性・モデル性に優れている等)について「○」を記載すること。また、そのうち「総括票」に記載したものについては、「◎」を記載すること。

※3 「H24予定」の欄には、「実施」「着手」「検討」「検討・実施せず」から選択して記入すること。

※4 「取組の進捗状況」の欄には、「<実施>」「<着手>」「<検討>」「<検討・実施せず>」から選択して記入した上で、状況を記載すること。

※5 「計画との比較」欄は、アクションプランへの記載と比した進捗状況を示すものとし、「H24予定」欄と「取組の進捗状況」欄を比較して、以下の分類によりa)～d)の記号付すること。

a)計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施、b)ほぼ計画通り、c)計画より遅れている、d)取り組んでいない

「環境モデル都市おびひろ・地球温暖化防止について」 市民アンケートについて

目的: 次期環境モデル都市行動計画を策定するにあたり、市民の地球温暖化への認識を調査し、意見を参考にするためにアンケートを実施した。

内容: このアンケートは、大きく次の4区分について実施した。

- (1) 環境モデル都市について……………(問1～4)
- (2) 交通手段等について……………(問5～8)
- (3) 資源ごみ等について……………(問9～16)
- (4) 暖房機器等について……………(問17～18)

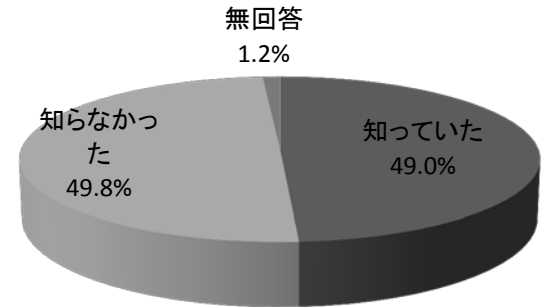
対象地域	帯広市内
対象者	満20歳以上の帯広市民
標本抽出方法	無作為抽出
標本数	1,800人
調査方法	郵便による発送・回収
調査時期	平成25年7月25日(木)～8月19日(月)
回答数	582人(32.3%)

アンケートの精度

本調査の回収数は582件であり、信頼度95%・標本誤差を5%とした場合の統計学上の必要標本数383件を上回り、本調査から得られた分析結果は、帯広市全体としての意見を推定するために、十分な精度を得ています。

問1 帯広市が環境モデル都市として地球温暖化防止に取り組んでいることを知っていましたか。

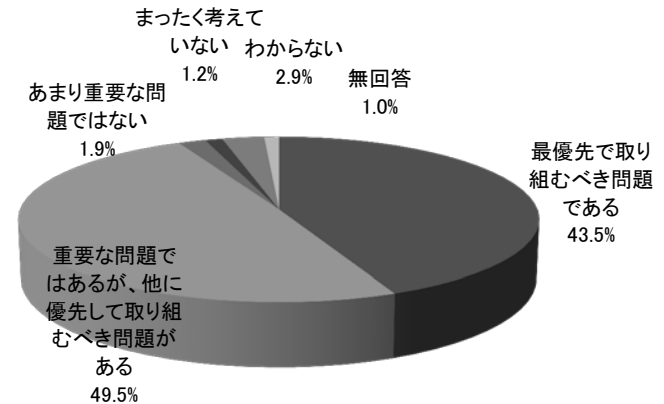
	回答数	構成比
(1) 知っていた	285	49.0%
(2) 知らなかった	290	49.8%
無回答	7	1.2%
計	582	100.0%



⇒環境モデル都市を知っていた市民と知らなかった市民は半数ずつ。

問2 近年、地球温暖化による異常気象、氷河の減少、海面の上昇、生態系の変化などが世界各地で見られます。あなたはこの問題にどのように取り組むべきだと思いますか。

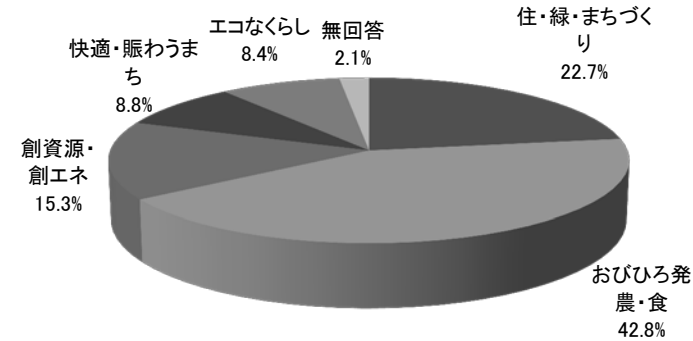
	回答数	構成比
(1) 最優先で取り組むべき問題である	253	43.5%
(2) 重要な問題ではあるが、他に優先して取り組むべき問題がある	288	49.5%
(3) あまり重要な問題ではない	11	1.9%
(4) まったく考えていない	7	1.2%
(5) わからない	17	2.9%
無回答	6	1.0%
計	582	100.0%



⇒9割以上の市民が地球温暖化に対する問題意識をもっているが、そのうちの約半数は他に優先すべき問題があると回答。

問3 帯広市は、5つの視点からなる環境モデル都市行動計画に基づき取り組みをすすめています。今後、どの視点の取り組みに最も力を入れていくべきだと思いますか。

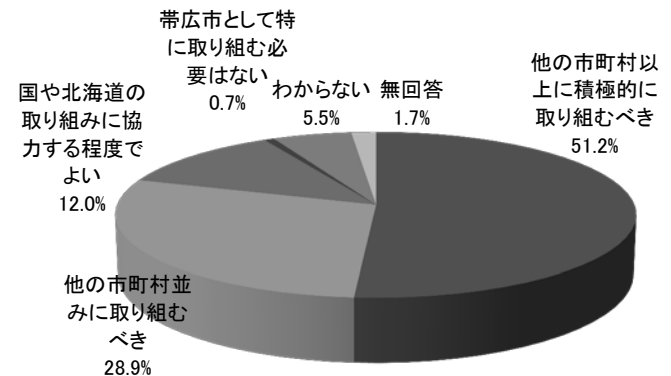
	回答数	構成比
(1) 住・緑・まちづくり	132	22.7%
(2) おびひろ発 農・食	249	42.8%
(3) 創資源・創エネ	89	15.3%
(4) 快適・賑わうまち	51	8.8%
(5) エコな暮らし	49	8.4%
無回答	12	2.1%
計	582	100.0%



⇒力を入れるべき行動計画の分野は、おびひろ発 農・食が最も多く、次いで住・緑・まちづくり、創資源・創エネ、快適・賑わうまち、エコな暮らしの順であった。

問4 今後、帯広市は地球温暖化防止のためにどのように対応していくべきだと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 他の市町村以上に積極的に取り組むべき	298	51.2%
(2) 他の市町村並みに取り組むべき	168	28.9%
(3) 国や北海道の取り組みに協力する程度でよい	70	12.0%
(4) 帯広市として特に取り組む必要はない	4	0.7%
(5) わからない	32	5.5%
無回答	10	1.7%
計	582	100.0%



⇒地球温暖化の防止について、半数以上の市民が他の市町村以上に積極的に取り組むべきと回答。

「環境モデル都市おびひろ・地球温暖化防止について」アンケート結果

目的

次期環境モデル都市行動計画を策定するにあたり、市民の意見を参考にするためにアンケートを実施した。

内容

このアンケートは、大きく次の4区分について実施した。

- (1) 環境モデル都市について……………(問1～4)
- (2) 交通手段等について……………(問5～8)
- (3) 資源ごみ等について……………(問9～16)
- (4) 暖房機器等について……………(問17～18)

対象地域	帯広市内
対象者	満20歳以上の帯広市民
標本数	1,800人
標本抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵便による発送・回収
調査時期	平成25年7月25日(木)～8月19日(月)

アンケートの精度

本調査の回収数は580件であり、信頼度95%・標本誤差を5%とした場合の統計学上の必要標本数383件を上回り、本調査から得られた分析結果は、帯広市全体としての意見を推定するために、十分な精度を得ています。

あなたの性別はどちらですか。

	回答数	構成比
(1) 男	239	41.1%
(2) 女	340	58.4%
無回答	3	0.5%
計	582	100.0%

あなたの年齢はどれにあてはまりますか。

	回答数	構成比
(1) 20歳代	32	5.5%
(2) 30歳代	61	10.5%
(3) 40歳代	84	14.4%
(4) 50歳代	96	16.5%
(5) 60歳代	133	22.9%
(6) 70歳以上	173	29.7%
無回答	3	0.5%
計	582	100.0%

あなたのご職業はどれですか。

	回答数	構成比
(1) 会社員	109	18.7%
(2) 自営業	45	7.7%
(3) 公務員	28	4.8%
(4) 学生	4	0.7%
(5) 専業主婦	126	21.6%
(6) アルバイト・パート	97	16.7%
(7) 無職	149	25.6%
(8) その他	22	3.8%
無回答	2	0.3%
計	582	100.0%

あなたのご家族(ご自身を含めた同居人数)は何人ですか。

	回答数	構成比
(1) 1人	78	13.4%
(2) 2人	240	41.2%
(3) 3人	138	23.7%
(4) 4人	81	13.9%
(5) 5人以上	40	6.9%
無回答	5	0.9%
計	582	100.0%

問1 帯広市が環境モデル都市として地球温暖化防止に取り組んでいることを知っていましたか。

	回答数	構成比
(1) 知っていた	285	49.0%
(2) 知らなかった	290	49.8%
無回答	7	1.2%
計	582	100.0%

問2 近年、地球温暖化による異常気象、氷河の減少、海面の上昇、生態系の変化などが世界各地で見られます。あなたはこの問題にどのように取り組むべきだと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 最優先で取り組むべき問題である	253	43.5%
(2) 重要な問題ではあるが、他に優先して取り組むべき問題がある	288	49.5%
(3) あまり重要な問題ではない	11	1.9%
(4) まったく考えていない	7	1.2%
(5) わからない	17	2.9%
無回答	6	1.0%
計	582	100.0%

問3 帯広市は、5つの視点からなる環境モデル都市行動計画に基づき取り組みをすすめています。今後、どの視点の取り組みに最も力を入れていくべきだと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 住・緑・まちづくり	132	22.7%
(2) おびひろ発 農・食	249	42.8%
(3) 創資源・創エネ	89	15.3%
(4) 快適・賑わうまち	51	8.8%
(5) エコな暮らし	49	8.4%
無回答	12	2.1%
計	582	100.0%

問4 今後、帯広市は地球温暖化防止のためにどのように対応していくべきだと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 他の市町村以上に積極的に取り組むべき	298	51.2%
(2) 他の市町村並みに取り組むべき	168	28.9%
(3) 国や北海道の取り組みに協力する程度でよい	70	12.0%
(4) 帯広市として特に取り組む必要はない	4	0.7%
(5) わからない	32	5.5%
無回答	10	1.7%
計	582	100.0%

問5 交通手段について伺います。あなたが主に利用するものはどれですか。

	回答数	構成比
(1) 徒歩	36	6.2%
(2) 自転車	52	8.9%
(3) バイク・スクーター	1	0.2%
(4) バス	50	8.6%
(5) 自動車	429	73.7%
(6) 鉄道	1	0.2%
(7) その他	0	0.0%
無回答	13	2.2%
計	582	100.0%

問6 バスまたは鉄道を選択された方に伺います。週に利用する日数はどのくらいですか。

	回答数	構成比
(1) 1日程度	14	28.0%
(2) 2日程度	8	16.0%
(3) 3日程度	12	24.0%
(4) 4日程度	4	8.0%
(5) 5日程度	7	14.0%
(6) 6日程度	0	0.0%
(7) 毎日	2	4.0%
無回答	3	6.0%
計	50	100.0%

問7 自動車を選択された方に伺います。次のどの自動車を主に利用されていますか。

	回答数	構成比
(1) ガソリン自動車	352	82.1%
(2) ディーゼル自動車	24	5.6%
(3) 電気自動車	0	0.0%
(4) ハイブリッド自動車	28	6.5%
(5) 天然ガス自動車	0	0.0%
無回答	25	5.8%
計	429	100.0%

問8 ディーゼル自動車を主に利用されている方に伺います。帯広市内では、廃天ぷら油から製造され、二酸化炭素の排出量が少ないBDF(バイオディーゼル燃料)を軽油に混合した燃料が販売されています。BDFについてあなたの考えに最も近いものを選んでください。

	回答数	構成比
(1) 価格に関係なく使いたい	2	8.3%
(2) BDFの価格が軽油より安ければ使いたい	13	54.2%
(3) 使いたいと思わない	5	20.8%
(4) その他	3	12.5%
無回答	1	4.2%
計	24	100.0%

問9 「資源ごみ」の分別について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	回答数	構成比
(1) 分別できる	374	64.3%
(2) 大体分別できる	183	31.4%
(3) 分別が難しい	16	2.7%
無回答	9	1.5%
計	582	100.0%

問10 「分別が難しい」を選択した方に伺います。その理由はどれですか。

	回答数	構成比
(1) 分別の種類が分からない	9	56.3%
(2) 紙パックを開くのが大変	0	0.0%
(3) 水洗いが大変	3	18.8%
(4) ペットボトルのラベルはずしが大変	2	12.5%
(5) その他	1	6.3%
無回答	1	6.3%
計	16	100.0%

問11 「分別できる」、「大体分別できる」を選択した方に伺います。資源ごみのうち、分別がわかりにくい品目はありますか。

	回答数	構成比
(1) 特になし	286	51.3%
(2) 缶類	11	2.0%
(3) ペットボトル	9	1.6%
(4) ビン類	34	6.1%
(5) 紙パック類	13	2.3%
(6) プラスチック製容器包装	128	23.0%
(7) 紙製容器包装	35	6.3%
(8) その他	26	4.7%
無回答	15	2.7%
計	557	100.0%

問12 帯広市の生ごみ堆肥化容器、電動生ごみ処理機の購入助成金制度を知っていますか。

	回答数	構成比
(1) 知っている	360	61.9%
(2) 知らない	211	36.3%
無回答	11	1.9%
計	582	100.0%

問13 生ごみ堆肥化容器、電動生ごみ処理機等を使っていますか。

	回答数	構成比
(1) 生ごみ堆肥化容器	94	15.7%
(2) 電動生ごみ処理機	33	5.5%
(3) ダンボールコンポスト	15	2.5%
(4) 使っていない	439	73.4%
無回答	17	2.8%
計	598	100.0%

問14 「使っていない」を選んだ方に伺います。今後使ってみたいと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 思う	205	46.7%
(2) 思わない	232	52.8%
無回答	2	0.5%
計	439	100.0%

問15 町内会等で実施している資源集団回収に参加していますか。

	回答数	構成比
(1) 参加している	422	72.6%
(2) 参加していない	149	25.6%
無回答	10	1.7%
計	581	100.0%

問16 「参加していない」を選んだ方に伺います。参加していない理由はどれですか。

	回答数	構成比
(1) 回収日が分からない	21	14.1%
(2) 回収する回数が少ない	13	8.7%
(3) 回収場所が遠い	11	7.4%
(4) 町内会に加入していない	74	49.7%
(5) その他	26	17.4%
無回答	4	2.7%
計	149	100.0%

問17 天然ガスについて伺います。天然ガスは石油と比べて燃焼時の二酸化炭素の排出量が少ないエネルギーです。天然ガスを使用した暖房機器や給湯器について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

	回答数	構成比
(1) 暖房機器や給湯器、天然ガスの価格に関係なく使いたい	39	6.7%
(2) 暖房機器や給湯器が安ければ使いたい	109	18.7%
(3) 天然ガスの価格が灯油や電気より安ければ使いたい	317	54.5%
(4) 使いたいと思わない	54	9.3%
(5) その他	36	6.2%
無回答	27	4.6%
計	582	100.0%

問18 木質ペレットストーブについて伺います。木質ペレットストーブは間伐材等の木からできたペレットを燃料とした暖房機器です。木質ペレットストーブについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

	回答数	構成比
(1) ストーブ、ペレットの価格に関係なく使いたい	13	2.2%
(2) 木質ペレットストーブの価格が安ければ使いたい	66	11.3%
(3) 木質ペレットの価格が灯油や電気より安ければ使いたい	229	39.3%
(4) 使いたいと思わない	185	31.8%
(5) その他	56	9.6%
無回答	33	5.7%
計	582	100.0%

問19 その他に地球温暖化の防止に向けたアイデアや意見などがあればご記入ください。

	回答数	構成比
(1) 記述あり	109	18.7%
無回答	473	81.3%
計	582	100.0%

記述内容

- 総合的にうまく、各種類のエネルギー水力・火力・太陽光・風力・地熱・バイオマスなどの各種エネルギーをうまく組み合わせて特に、蓄電池技術を民間と協力して国や自治体が開発すべし、原子力にたよらない安定した国にするために。 (男、40歳代、無職)
- 市民にわかる様にして実態がまるでわからない。環境都市って事も全然知らないし広報がまるでなっていない (女、50歳代、アルバイト・パート)
- それぞれの敷地に雨水・雪を蓄えるタンクを置いて冬の寒気で氷を作り蓄え、夏の冷房に、夏の熱気で温水を蓄え冬の暖房にできたら省エネが進むんじゃないかと思えます。 (女、40歳代、専業主婦)
- 原発を廃止に自然エネルギーに切り替えられるよう望みます。 (女、60歳代、専業主婦)
- 畑に散布する農薬の削減 (女、40歳代、専業主婦)
- ソーラー電力に力を入れるべきだ (男、70歳以上、無職)
- 地球温暖化防止の大切さ市民に向けて地域の中で学習会等が必要だと思います。分かり易く取り組み易い事の話の伝え方多く望みます。 (男、70歳以上、無職)

- 80代に入った私達にはアイディアはむずかしいですね。 (男、70歳以上、無職)
- 排気量の大きい乗用車に高い税金をかけて軽や小型車を優遇し排気ガスの排気量を減らす。 (男、40歳代、会社員)
- 帯広市をモデルとして他町村と共に取り組んで下さい。 (男、70歳以上、アルバイト・パート)
- 資源ゴミですが市の回収に出す事は良いと思いますが、出来れば町内会での回収に出すよう指導徹底して町内で役に立つようにしてほしい！ゴミ出しも道路に散乱してカラスがあさっている姿を見ると腹が立ってしまいます。 (女、50歳代、無職)
- パチンコ・コンビニ・飲食街・官公庁・デパート等最低限の照明にすべき。最近、北電、帯広市は節電に協力のコマーシャルを流していない。これではこの先が思いやられるし、このアンケートもむなし。例)資源ゴミの分類よりも資源ゴミが「出ない方法」「出さない方法」を考えるべき。 (男、60歳代、その他)
- 私は東京から移住してきたものですが、帯広は市民のゴミや環境に対するモラルが非常に低い地域だと感じています。表題のような取り組みは大変良いことと思いますが、まずは市民一人一人のモラルの向上が不可欠かと思えます。ゴミのポイ捨て・コンビニのゴミ箱への家庭ごみの投入・エコとはほど遠い乱暴極まりない自動車運転等々。以前出張で生活していた中国の北京なみのレベルです。大きな目標のまえに市民のレベルを標準化することが必要と切に思います。 (男、40歳代、会社員)
- 通信機器、生活に必要以上に遊具に使われすぎている (女、70歳以上、専業主婦)
- 地球温暖化によるこのところの異常気象がとても気がかりです。防止に取り組み何とか住み易い安全な地球を取り戻せたらと思います。 (女、60歳代、無職)
- 地熱の利用や、ゴミ処理、水利施設などでムダになっているエネルギーを使う発電が必要だと思う。いかにムダなくエネルギーを拾えるかが今後の生活に最も必要なことだと思うので、まずはゴミ処理場に発電システム等が置けるかどうかを鍵だと思う。 (女、30歳代、アルバイト・パート)
- 世界的にももっともっと取り組まないと地球上に人が住めなくなることを市としても他の都市や国に関係なく積極的に取り組むべきで若い人達の意見に耳をかたむけるべきである！！ (男、60歳代、会社員)
- 温暖化ではないが、フードバレーについてどうしても気になる事があるので書かせて頂きます。既に勝毎の読者投稿でも何度か指摘されていることですが、帯広市の学校給食がお粗末すぎます。食による地域振興を言うならまず、未来を担う帯広の子供達に地元の豊富な食材を用いた豊かな給食を提供すべきです。豊かな食材の宝庫でありながら、貧相な給食とは全く考えられない状況です。帯広の子供達が給食を好きになり十勝を好きになるために本気で学校給食を改善してこそフードバレーを唱えられるのではないのでしょうか。 (男、50歳代、アルバイト・パート)
- 地球温暖化については興味を持っている。が、しかし、口で言っただけでは物事終りであるから根気よく取り組んでもらいたい。ひとつひとつ取り組むことが大切である。 (男、70歳以上、無職)
- ①トラックの排ガスの規制はどうなっているのか。排ガスが汚いと思う。②太陽光発電の北電の買取量が少ない。もっと圧力をかけて引き取らせてもらいたい。 (男、70歳以上、無職)
- 各家庭に最低1本は木を植えるようにすると (男、30歳代、会社員)

- 少しの不便を楽しむ気持ちがあれば
無理とは思いますがゴミ等を個人が出来る所に？少なくする気持ち（無理だと思ふ） (男、60歳代、自営業)
- 特に言いたいことは農業に力をいれてほしい、天候が不順なので心配しています。北海道が食の農業に皆さんで心をくばってほしいと思います。食の安全化に力を入れて下さい。 (女、70歳以上、専業主婦)
- 公共施設や大型店舗の照明の使用を制限したらいいと思う。どこの店でも明るくし過ぎている感じがするので。
市民や市外の人ゴミの不法投棄が気になる。ポイ捨て防止の看板などを立てたり、町の中にゴミ箱を設置したりしたらいいと思う。 (女、20歳代、会社員)
- よく分からないのですが、雪をエネルギーとして使っている市町村があると聞きました。帯広も少ないとはいえ、十分な雪があると思います。新しいエネルギー源として使えないものでしょうか？あと微々たるものですが家畜の糞尿をメタン発酵することで発電させることも可能だと思います。北海道ならではの資源でエコな暮らしができたらうれしいです。 (男、20歳代、学生)
- 市の取り組みに対し、認知が不足していたのか活動状況が見えていませんでした。 (男、60歳代、無職)
- 首都機能を北海道へ人口密度の分散化 (男、60歳代、その他)
- 自然エネルギーの有効利用を積極的にすすめる。 (男、60歳代、無職)
- 特に思い当たる事はない。 (女、60歳代、専業主婦)
- ゴミの分別がだらしなさすぎる。市民一人ひとりが自分の生きる国のことを真剣に考えて行動すべきである (女、70歳以上、専業主婦)
- 今、世界や日本各地で地球温暖化の有効な公共の交通の乗り物として路面電車が見直されている。帯広市も温暖化対策として真剣に検討して欲しい。 (男、60歳代、無職)
- 地球規模的な話なので特効薬的なアイデアはありませんが、一人一人が1割CO2削減をできれば次の段階で又1割を考えていけば目標達成は簡単であろう。ただ世の中「公平」という言葉に踊らされている様に思えます。権利の主張が先に来て義務を果たさない人が増えてきている様に感じる気がします。義務を果たした後の公平だという自覚するべく行政をはじめ皆がこの思いになれば大きな目標を共通のものにできると思うのですが。 (男、60歳代、自営業)
- 電動生ゴミ処理機は意外と使いにくく、使用中の音や時間が短ければ……と思います。 (女、70歳以上、専業主婦)
- ecoに関して、昔はTVIは1時や2時に砂嵐だったのに今はずっとやっている。お店も24Hやっていてネオンが付いているのもったいないな一と思う。コンビニ24Hは特定店舗だけでも良いのにな一と思う事があります。 (女、30歳代、会社員)
- 地域柄(農村部)に住んでいるので交通の便が悪く自動車通勤をしています。バスの便が良くなり皆が利用すれば環境もよくなりエコにもつながると思います。公共交通機関の見直し、改善をお願いします。 (女、20歳代、会社員)
- ゴミを減らす、二酸化炭素の排出量(温暖化の進行をおさえること)の件など個々に皆が意識していると思うが、ゴミが出るし生活していく上で二酸化炭素が出るのはどうしようもないと思う。ただ、間17・18のように値段が安ければもっと広く利用してくれるはず。 (女、40歳代、会社員)

- 自分は自動車中心の生活ですが思うことは、ムダなエンジンつけっぱなし・エアコンのつけすぎ・エンジンのふかしすぎ・スピードの出しすぎ、など常日頃から市民が気をつけていけることだと思います。(女、50歳代、その他)
- 機器の価格について少々高額であっても日々消費するものの負担を考えるといろいろ使用してみたいです。(女、60歳代、その他)
- 冬期の道路の除排雪がよければ自動車走行等がスムーズであり、結果的にムダな燃料も節減できるのではないかと特に軽車両の普及している昨今、生活道路を含む除雪等が必要と思われる。(男、70歳以上、無職)
- 地下の温水を各家に配給し暖房設備にも利用する。50年先の事を考えて長期的に段階的に十勝管内に広めていく。(男、50歳代、アルバイト・パート)
- できるだけ自宅の土地を緑で精一杯囲みたいと努力してがんばってます。市はようやく緑(植物)の整理物が無料でゴミで出せて喜ばしいことです。旅行するといかに帯広は花いっぱいとうれしい気分。(女、60歳代、その他)
- 温暖化だけでなく問題はたくさんあると思うが「もったいないではなくまず身の回りのムダをなくしていく」、「予算や使われていないものはないかをきちんと見直していく事」が必要だと思う。学校教育等の現場で地域の清掃活動やボランティアに参加する等、小さいうちから周囲に目を向け知ったり、実際にふれていく活動を入れてはどうでしょう。(女、40歳代、アルバイト・パート)
- 環境の為、自分自身がゴミを増やさない工夫をしたり、車の使い方を考えていきたいです。(女、30歳代、専業主婦)
- 小さな努力であっても沢山の人が協力すれば大きな努力になる。(女、60歳代、専業主婦)
- 地球温暖化と言っても環境と人間の問題であるから、平和を願うところに環境も変化すると思う。最近ではカラスが多すぎて困る問題もあるが極力安全的であって欲しい(男、60歳代、無職)
- ゴミの問題について・・・食欲の出ない給食を提供されても残飯になるだけなら自校式にしてフードバレー十勝の特色の一つにして欲しい。目先の利益より将来の希望につなげる帯広市であってほしい。他町村の給食がうらやましい・・・。フードバレー十勝というのが恥ずかしいです・・・。(女、40歳代、アルバイト・パート)
- 木を植えると良いと思います。(女、60歳代、自営業)
- 後始末の出来ない原発は絶対反対します。(男、60歳代、会社員)
- もう少しで太陽の活動が低下して小氷河期に入るそうなので特に何もしないでも寒くなるかもしれませんね。(女、30歳代、アルバイト・パート)
- 自然にやさしいエネルギーの開発、節約の心で(男、70歳以上、無職)
- 気象条件に恵まれ、広大な平野を持つ十勝でこそ率先して太陽光発電を推し進めるべきだと思います。(女、30歳代、アルバイト・パート)
- 脱原発を積極的に進めて欲しい。電気をムダに使う「オール電化」をやめるように北電に働きかけてほしい。(男、50歳代、会社員)
- ご苦労様です。こうしたアンケートなどの取り組みが良いことだと思います。小さい事から私達も協力していきます。プロの方々のご意見などをたくさん聞きたいです。(女、40歳代、アルバイト・パート)
- 十勝自体は温暖化に影響はそれほど与えていないと思いますが、環境はいいのですから、クリーンエネルギーにも取り組んでほしいと思います。(女、50歳代、アルバイト・パート)

- 人の暮らしが便利になる程自然が破壊されていく。人と自然(森・川etc)動物の共存はますます難しい時代になった。地球上に住んでいる生きているのは人間だけではない。小さな生物が住みやすい環境を考える事が温暖化防止にもつながるのでは・・・ (女、50歳代、専業主婦)
- アンケート実施は良いと思いますが、それに満足しないでしっかり仕事をやりなさい。おまへたちはただの給料泥棒だ。結果を出せ。 (男、20歳代、会社員)
- 自転車などが通れる専用道路を作る (男、20歳代、公務員)
- 帯広は冬の日照時間が多いので室内に採光を取り入れる。他の機器費不用、日射には家に採光窓の工事費がかかるが(ランニングコスト0円)我が家は断熱係数が良いので日射は冬至9時からより入射する、暖房費は1月の真冬でも30L×90円＝2700円(節約努力もあり)ストーブはファンヒーターのみ。冬の暖房費を考え日当たり場所の住宅を購入。 (男、70歳以上、無職)
- 家屋敷の周りに植樹を奨励するために減税するとかの対策を道・国に働きかける (男、70歳以上、無職)
- 公共施設や企業が率先して取り組むことは必要である。住宅を新築される方は環境に対応して建て方をすべきである。(例:LED・ソーラ等) (女、70歳以上、無職)
- エアコンの設定温度をさげてる事はもちろん必要ですが、排気温度が高いことが問題です！帯広市だけでは取り組めないかもしれませんが先頭に立って何とかするよう動いて欲しいと思います！！ (女、50歳代、専業主婦)
- 大気中の二酸化炭素を何か有用なものに変化させる技術があればなあ・・・科学者に期待します。 (男、40歳代、公務員)
- 国のモデル事業などにすぐ飛びつくが、十分検討の上、指定を受けるべきである。 (男、60歳代、無職)
- 出来る限り自然の状態で生活するよう努力しようと思っています。 (女、70歳以上、無職)
- 全戸・太陽光パネル義務化。税制度の優遇。帯広市が補助助成(しなきゃ無理でしょ) (男、40歳代、自営業)
- 大きな建物、マンションの屋上を木や植物・芝で緑化する。歩道や施設内の空地等を雨を吸収する素材(名前が分かりません)のものにする。アスファルトで固めない。 (女、60歳代、専業主婦)
- 個々人の自覚、車のエンジンをかけたままにしない等、小さな事から広報「おびひろ」に載せる等にした方が良いと思います。温暖化も大切ですが原発は目に見えずおそろしくこちらの方にも力をそそいでほしいと思います。海流してくるイカ・サンマその他、放射能の不安があり子ども・孫には食べさせてません。1日も早く脱原発にしてほしいといつも思っています。 (女、60歳代、アルバイト・パート)

- このアンケートは住環境を中心にしているようだが樹木や花壇などを含めて環境も含めて考えるべきではないだろうか?炭酸同化作用をしてきている樹木や花、これらの配地も含める(みどりの課担当?)環境も考え観光面からも検討すべきだと思う。特に市指定の木→白樺 花→クロユリと市政案内に掲載されていても町内会の花壇にも役所前のプランターにさえもクロユリを見る事はない。観光地の幸福駅や愛国駅・八千代牧場にも。見れるのは野草園のみというのは市のありようとしてはいささか落ち度があるといえよう。トータルで環境に取り組むべきだ。「排出」だけでなく。(担当課独自でなく担当部署の横の連絡を！) (男、70歳以上、無職)

- 帯広市はごみ収集が非常に悪い、他町村から来て驚いた。ゴミ袋の高いのにも驚いた。私が転入する前の市は(関東地方)50L1枚20円でした。市役所職員・市会議員、一体何を考えているのか月給貰う程働いているのか職員自らの反省を… (男、70歳以上、無職)

- 環境モデル都市の取り組みを進めている都市としてはあまりにも無防備に(自然に対して)拡大しすぎてはいないか疑問です。 (男、60歳代、会社員)
- アメリカ、中国などが積極的ではないので日本が頑張ることもナイ。 (男、40歳代、無職)

- 必要以上の伐採はせず、植樹を増やす。原子力に頼らず自然エネルギーで暮らせる環境にしたい。 (女、40歳代、専業主婦)
- 全国でも数少ない「環境モデル都市」に選ばれていることからして、帯広の財産の1つでもある「きれいな空気と水」を将来の人々に残すためにも、「煙草の吸殻・ポイ捨て禁止条例」を設定することを提案いたします。(すでに全国各地で取り組まれています。)現在、街中ほか近郊でも排水溝などには吸殻が散乱しています。バス停広場・歩道などにおいてもしかりです。すべて雨水などで地下浸透、または川を汚染する事だと思えます。またきれいな空気も汚します。観光の面からもぜひ検討して下さい。 (男、60歳代、会社員)

- 自分の住んでいる地域または、自分の家の庭でも緑化…すべきではないでしょうか。コンクリートではなく土のある生活をするのがいいと思います。 (女、60歳代、アルバイト・パート)
- 車社会…?週に1度は自家用車を使用せず、ノーカー日として交通機関(乗り合いバス)を利用する日を作っては…。 (男、60歳代、無職)
食品スーパー等から包装ゴミまで購入しない方法は…。
- 1. ゴミゼロを目指して一層努力すべきだと思います。2. 市のゴミ分別パンフレットにはシュレッダー紙は不可、町内会での回収が可と取扱いに差があるが具体的な理由の記載が乏しい。リングプル及びキャップ等についても同じ、また市で収集はしないものについての処理方法を一層幅広く(塗料・薬品…)についても具体的に記載して欲しい。有料での収集も願いたい。3. 帯広の森の拡張を検討して欲しい。 (男、60歳代、アルバイト・パート)

- 通勤にはマイカーをやめ、バス等で通勤する様努力する。市民を代表し、特に市職員には定期券等を現物支給しマイカー通勤を自粛してもらいたい。 (男、60歳代、会社員)
- ガスや電気及び炊事時間の節約のために(鍋帽子)を使っています。煮込み料理に5分~10分煮たらあとは鍋帽子の中へ30分~1時間 (女、70歳以上、無職)

- ①通勤・通学の時間帯を除くバスは1人2人の乗客(貸切)状態が目につくバスの小型が良い！！しかもこの土地はマイカー族がほとんどだ。②他の市から数年前に越してきたがゴミ出しのマナーが悪すぎる！！自治会を通してもっと徹底すべき。市の職員が個別にマンション等の住人を集め分別方法を教えるべきだ！ (女、50歳代、専業主婦)
- 省エネ対策機器の開発に積極的に取り組む。若しくは取り組んでいる大学等の研究機関に資金援助をする。 (男、30歳代、公務員)
- 帯広駅に集中したバス路線以外にも色々なルートの路線があると利用しやすい。 (女、40歳代、専業主婦)
- 問2・3に回答した通りその間は最も基本的に取り組む問題だと思えます。私は友人・知人と共によく近隣の山に山菜とりに出かけますが10年単位で見ても樹木の立枯れを数多く目にします。害虫の被害もありますが降りしきる酸性雨の影響と思っています。故にこれからは人間の思考では及びのつかない程の環境破壊が進行していると思えます。今では「この道はいつか来た道」ではなくなりました。このままでは銭金だけでは「生きとし生ける物」の命は救えないことも事実ではないのでしょうか。車優先の社会構造の弊害がやがて生きる物への妨げにならない事を切望しつつ。 (男、70歳以上、無職)
- 歩道だけでもアスファルト化にせず違う材質に出来ないものかな？街のあちらこちらに本当に細い小川を流したらどうか？ (男、50歳代、公務員)
- 公共交通機関をもっと利用しやすい時間帯・料金設定、高齢者が安心して乗り降り出来る様に(特に冬場) (女、50歳代、会社員)
- 十勝はもっとバイオとか温泉水の利用など自然エネルギーを考えて欲しい！！ (女、60歳代、自営業)
- 帯広は冬寒いところなのでなんとか安い暖房燃料が出来ればいいと思う。二酸化炭素の少ない燃料もどんどん出来ればいいと思う。 (男、40歳代、会社員)
- 帯広市も芽室町のようにゴミの分別をもっと分けるべき(有料ゴミ袋) (女、20歳代、会社員)
- 街路樹を増やす。その際、場所にもよるがなるべく歩道が木陰になるように配置する。(図あり) (女、40歳代、専業主婦)
- 問19を見る前に問2に意見的に記入してしまったもの。地球温暖化問題は重要と考えており答えはしましたがさきに配布のあった市議会だよりの中でもほとんど論議がないような地球規模の大き過ぎかつ多様性のある課題に市民個々へのアンケート実施や意見を求めこの結果をどのようにしようとしているのか非常に疑問があり費用対効果の面でもアンケート実施は安易すぎではないでしょうか。 (男、70歳以上、無職)
- 子どもへの教育を今以上に折りに触れて行く。リサイクルは町内で今まで以上の効果は望めないの若い人達がやりやすい様にスーパー・コンビニを利用できる様にする。 (女、50歳代、アルバイト・パート)
- ごみ分別法は時々FM放送やOCTVでやり方を少しずつ流すとか、毎年もらえる日程のチラシの裏に少し細かく書いてくれるとかするとどうでしょう。レジ袋をやめる運動って本当にエコなのか？ちょっとなぞです。エコもやりすぎたら手間がかかるので、程ほどでいいです。せまい家の中ゴミ箱だらけでこまっていますし。 (女、30歳代、専業主婦)

- 「レジ袋はお使いですか？」「ははいりません」と言ったやりとりは定着してきたと思います。一方、ネット通販の普及は温暖化防止に逆行しています。温暖化対策と経済を縮小させないこととのバランスをとりながらすべての住民の関心を高めることが大切かと思う。 (男、40歳代、公務員)
- ペレットばかりにこだわらず通常のまきストーブではダメなんでしょうか？ (女、40歳代、アルバイト・パート)
- 海外の様に古着やビンなどの資源回収ボックスが郵便ポストのように設置されていたら、ゴミも減るし、ゴミ収集車の台数も減るのでCO2削減になる。 (男、40歳代、会社員)
- 暖房機器・燃料代など価格が安くないと使用しないと思う。高齢者優遇の帯広市は高齢者よりも環境・若者・幼児・学校校舎等これからの未来の子供達へ補助金を使用してほしい。高齢者に対して補助金を掛けすぎである。検討して欲しい。 (男、40歳代、公務員)
- 市内での通勤は出来るだけ自動車を使わず歩きか自転車にすべきです。 (女、70歳以上、無職)
- わからない (女、70歳以上、無職)
- ゴミステーションをもっと衛生的にしてほしい転勤してきてただあみをかけるだけなのにびっくりした。国からモデル都市に選ばれた基準がわからない。もっときちんとやってる市町村を見習うべきだと思う。別に努力しているようには見えない。おむつの資源ゴミに出すのはどうにかしてほしい。ストレスになる！！分別するのがばかくなる。 (女、40歳代、会社員)
- 住宅地にあるこども公園は公共の施設である事を認識させるべきだと思います。子供達のマナーの悪さ、水を必要以上に出しはしゃぎさわぐ、水を出しっぱなしで他の遊びに更ける、砂場の砂を運び流す行為。最近はこのもと一緒に大声を出しはしゃぐ大人、ゴミを捨てたまま帰る大人。一日中東屋を占領しジギスカンを始めるグループ、常識のない家族連れ。私は十数年来マナーの悪い人達を見た時は注意をしてきましたが中々浸透しません。公園は個人の家と隣り合わせである事を忘れていませんか。公園を作る事は結構と思いますが、利用する側に対するそれなりのマナーや約束事を指導して行くのも大切ではないでしょうか、どうかご一考をお願い申し上げます。 (女、70歳以上、アルバイト・パート)
- 緑(森・遊歩道・公園)を増やす。木陰があれば日差し、雨風、雪を防ぐ事が出来歩く、機会が増えきれいな空気も増える (女、40歳代、アルバイト・パート)
- 帯広・十勝の住人は自動車を使いすぎると思います。使わなければならない人場合以外は出来るだけ歩いたりバスを利用した方が、環境と健康寿命を延ばすために。 (女、50歳代、専業主婦)
- 例えば、節電目標等、長期に明確に表すべき、明示する事で皆の意識が高まる一人一人が取り組みしなければ何事も進まない。 (男、50歳代、会社員)
- 空気・水をつくりきれいにするのは絶対に緑です。木は切った分だけ植樹をする。荒廃地を緑地帯にする。 (男、50歳代、会社員)

- 市役所と民間企業では取り組みに温度差を感じます。地元食材を多く作っている飲食店に★のはたを掲げていますがエコに対する取り組みもパッと一目でわかるような表示をするのはどうですか？市役所近くで勤務していますが、毎日エアコンで寒い思いをして働いています。全国企業です意識が低いようです。(環境担当者が。) (女、30歳代、会社員)

- 地球温暖化を深刻に受け止めている。専門家の指導・方針による(国や市の)対策には積極的に協力したい。 (女、70歳以上、その他)
- 公園等緑地の増加 (女、50歳代、無職)
- 街灯を有効に使うように明るくなったら何時でも消すとかビル屋上の緑化 (女、40歳代、会社員)

- 1人1人が少しでも地球温暖化について意識を持ち毎日少しでも良いから、家で、CO2を減らす様努力すべきと思います。 (男、70歳以上、自営業)
- 雪氷利用の冷蔵・冷凍庫施設の開発
 集団システムの確立 (男、70歳以上、無職)
 交通システムの抜本的見直し